

## 資料

# 国立公文書館所蔵『監獄則案聴訟規則』について

霞 信 彦  
兒 玉 圭 司

## 1 はじめに

国立公文書館所蔵『監獄則案聴訟規則』について

明治五年一月二八日、太政官第三七八号布告<sup>(1)</sup>として「監獄則并図式」<sup>(2)</sup>が頒布された。該布告は、全国一律の監獄制度の確立を念頭に置いて定められた日本で初めての法令であり、本法令こそがいわゆる「文明的・近代的」な監獄制度を日本に導入する契機であったと評価されている。このため、日本の近代行刑史（監獄制度史）をあつかう上で「監獄則并図式」に言及した著作・論文は数多く、また条文ごとの意味内容や典拠、あるいは運用実態などについても、一部の先行研究において論じられてきた。<sup>(3)(4)(5)</sup>ところがその一方で「監獄則并図式」の編纂過程については、史料

の欠如という事情もあり、次節でふれるとおり、必ずしも詳細な検討が加えられてきたとはいえない状況にある。とりわけ、「監獄則」の草案が完成してから頒布にいたるまでの経緯や、「監獄則」の草案そのもの、および頒布されるまでに行われた審査・修正の内容については全く不明であるといっても過言ではない。

そうした中でこのたび兒玉は、国立公文書館に所蔵される『監獄則案聴訟規則』<sup>(6)</sup>と題する一簿冊の存在に着目し、その内容を確認した。その結果、本史料は明治五年一月二八日に頒布された「監獄則并図式」、および明治六年七月一七日に太政官第二四七号布告として定められた「訴答文例」<sup>(7)</sup>の編纂途上にある一草案とおぼしき内容をもつものであることが判明した。また、特に前半部分に掲げられた

「監獄則案」については、少なくとも「監獄則并図式」をめぐる従来の研究において全く取り上げられたことがなく、かつ、同法令の編纂過程や草案、さらには修正内容の手がかりを得ることのできる貴重な史料であると結論づけるに至った<sup>(8)</sup>。

そこで、本稿においては、霞・兒玉の両名によって本史料中の「監獄則案」を中心に検討を加え、簿冊の性質、および「監獄則案」の成立時期などの基礎的な事項についてまとめるとともに、近代行刑史研究の分野において、本史料のもつ意義にもふれておきたい。加えて、「監獄則案」を、『法規分類大全』に掲載された「監獄則」と対比させながら紹介したいと考える。

## 2 「監獄則并図式」の編纂過程をめぐる 先行研究の整理

本題に入る前に、「監獄則并図式」の編纂過程をめぐる先行研究の成果をふまえ、また国立公文書館所蔵『公文録』所載の関係史料を用いつつ、研究の現状を概観しておきたい。

これまでの研究成果にもとづけば、「監獄則并図式」の編纂は、小原重哉が「監獄則草案取調主管」に任命された

明治四年九月七日以降に具体化したものと考えられている<sup>(10)</sup>。

そして、明治五年三月二日、司法省から太政官正院あてに伺・上表が提起された<sup>(11)</sup>。該伺・上表は、東京府における獄舎の建築や全国的な獄制の統一をめぐる基本方針の確認など幅広い内容について記されたもので、必ずしも「監獄則」のみに関するものではないが、上表中に「監獄則一冊附表二枚圖式一冊全圖一枚分圖七枚ヲ編制ス」との記述があることから、この頃までには草案が一応の完成をみていたことが分かる。一方、該伺を受けた正院は、まず左院に意見を求めたようで、左院は三月一七日に「司法省伺ノ通異存無之候事」と回答した<sup>(13)</sup>。次いで三月二十七日、正院は司法省に対して、「伺之通」と指令している<sup>(14)(15)(16)</sup>。

約一ヵ月後の四月二五日、司法省から正院にあてて「監獄則聴訟規則上木ノ儀ニ付伺書」が提起された<sup>(17)</sup>。該伺は、「監獄則」の早急な上木・頒布を求めるとともに、上木作業を司法省の手で行いたいと希望するものである。伺文中に「先般伺済相成候監獄則二冊<sup>(18)</sup>」とあることから、この時点までに「監獄則」が完成し、裁可を得ていることが分かる。また、該伺に対して、正院は同月二八日に「伺之通」との指令を与えており<sup>(19)</sup>、これ以後、司法省の手による上木作業が進められたであろうとの推測が可能である。

次いで「監獄則」をめぐる動きを確認できるのは明治五年一月である。日付は不明だが、やはり司法省から正院に伺が提起され、布告案を添えた上で、「監獄則」の頒布を求めている。<sup>(20)</sup> 正院がこれに応えたのが同月二十八日であり、司法省伺に対して「同之通」と指令するとともに、即日、「監獄則并図式」<sup>(21)</sup>を頒布した。<sup>(22)(23)</sup>

以上が、これまでに判明している「監獄則并図式」の編算経緯である。前節でも述べたように、「監獄則并図式」の編纂過程や、草案および修正の内容がほぼ未解明のままであることが理解されよう。本稿では、『監獄則案聴訟規則』を用いることによって、こうした未解明の点について新たな情報を提供できるものと考ええる。

### 3 簿冊について

本史料は、国立公文書館に所蔵される「昭和四六年度総理府移管記録材料」に含まれ、『記録材料・監獄則案聴訟規則』<sup>(24)</sup>との名称で目録に登録される、独立した一冊の簿冊である。<sup>(25)</sup>

簿冊は、縦二五・〇糎、横八・三糎の和装本であり、青色の表紙・裏表紙によって装丁が施され、表紙の左上には

「監獄則案聴訟規則」<sup>(26)(27)</sup>との題簽が付されている。簿冊は全九六丁からなり、前半の四三丁に「監獄則案」が、後半の五三丁に「聴訟規則」が、それぞれ関連する史料とともに綴られている。

以下、前半に綴られる「監獄則案」に限定して、その態様をみていきたい。簿冊を開くと、第一丁および第二丁には、同法案の審査過程を示す記述がある。まず、表紙に続く第一丁は太政官八行赤罫紙であり、冒頭の二行に、「監獄則案」の本文（本稿では、「監獄則案」そのものを記した第三丁から第四三丁にわたる部分を、「監獄則案」本文と表記する）とは異なる筆跡で、

附紙之外異存無之候事

壬申三月十七日

左院  
左院<sup>(28)</sup>

と記されている。前出の『公文録』所載史料と照らし合わせると、ここにみえる三月一七日という日付は、三月二日の司法省伺に対して左院が「司法省伺ノ通異存無之候事」と回答した日付と一致している。すなわち、三月二日付の司法省伺を受けた太政官が、少なくとも左院において「監獄則案」の審査を行ったことが、ここから判明するのである。また、第一丁にはこのほか、右上に「内閣記録之印」との朱印が認められ、中央罫線内に朱書きで「九十八」と

の番号が付されている。後述するとおり、この漢数字の番号は第二丁以降も全丁にわたって朱書きされており、通し番号として付されたものと思われる<sup>(30)</sup>。

次いで、第二丁は無地の和紙であり、「監獄則案」本文と同じ筆跡からなる丁寧な楷書で、中央部に「監獄則案」との表題が記されている。そして、右面右上には四角い枠の中に「裁」の字の彫られた朱印が捺されている。これは「監獄則案」の裁可を意味する印影であると考えられ、まさに本史料こそが、司法省から太政官に提出された原本(原議)であつたことを示すものといえよう<sup>(31)</sup>。なお、第二丁左面には

三月廿七日

伺之通

と、「監獄則案」本文とは異なる筆跡で朱書きされている。これもまた前出の『公文録』所載史料にみられた記述と一致しており、ここからは、三月二日の司法省伺を受けて同月二七日に太政官が与えた「伺之通」との指令に、少なくとも「監獄則案」の裁可という意味が含まれていたことが明らかになる<sup>(32)</sup>。なお、第二丁にも第一丁と同じく、右面左上に「九十九」と朱書きの番号が付されている。

このうち、第三丁から第四三丁にかけては、一貫して司

法省八行青野紙が用いられ、「監獄則案」の本文が記されている。「監獄則案」本文は、一部の附紙を除いて同一の筆跡で、一行に記された文字数も概ね一定であり、丁寧な楷書で記されている。この間、第三丁の右上に「太政官記録印」という四角形の朱印が捺されていること、各丁の中央罫線内に通し番号が朱書きされていること、さらには15条に朱書きの箇所があることを除いて、印影・朱書きはみあたらない。しかし、この「監獄則案」本文には、附紙や野紙の継ぎはぎといった、法案の審査過程や修正内容を示す重要な手がかりが数多くみられるので、以下ではそれらの点について検討しておきたい(本稿にいう「附紙」・「継ぎはぎ」とは、一般的に用いられる意味の通りの紙片の態様を指すものだが、本稿では、史料の特定部分を示すに際し、あえてこれらの語句を用いた)。

「監獄則案」本文における第一の特徴といえるのが、随所に付された附紙である。これは大きく三つの型に分類することができる。

(A) 一定でない内容を持つ、「監獄則案」本文とは異なる筆跡の附紙

(B) 語句に一部異同があるものの、「本文之通」仕度候

といった定型文言を含む、「監獄則案」本文と同じ

## 筆跡の附紙

- (C) 一定でない内容を持つ、「監獄則案」本文と同じ筆跡の附紙

さらに第二の特徴として、「監獄則案」本文を記した司法省八行青罫紙がところどころで切り取られ、別の司法省八行青罫紙が貼り合わされていること、つまり随所に継ぎはぎがみられる点を指摘できる。これも、継ぎはぎの規模に着目すると大きく二つの態様があるといえ、

- (イ) 司法省八行罫紙のうち数行から半丁が継ぎはぎされる場合

- (ロ) 一文字から数文字分だけを切り抜き、紙をあてている場合

に分類することができる。なお、継ぎはぎされた箇所には、いずれも「監獄則案」本文と同じ筆跡で文章や文字が記されている。

こうした附紙や継ぎはぎの存在は、「監獄則案」本文が一旦完成したのちに、審査が行われ、修正が加えられたことを示唆している。したがって、これらの附紙・継ぎはぎが施された時期やその先後関係、あるいはその意味する内容を解き明かすことによって、本史料の性質をより明確にできるものと考ええる。

そして、結論から先に述べてしまうと、先に類型化した附紙や継ぎはぎの意味は、それぞれ以下のようなになる。

### 【何らの加工も加えられていない箇所】

司法省から太政官へあてて、最初に提出された「監獄則案」の内容と考えられるもの（以下では、この段階における「監獄則案」を原文と表記する）。

### 【附紙(A)】

左院の審査によって指摘された点。

### 【附紙(B)】

左院の審査などを<sup>(35)</sup>経て修正を施した「監獄則案」を太政官へ再提出するにあたり、変更箇所を注記したもの。

### 【附紙(C)】

左院の審査などを経て修正する以前の原文を、参考のために貼付したもの。

### 【継ぎはぎ(イ)】

左院の指摘などにもとづいて、太政官への再提出の前に修正・追加された部分。

### 【継ぎはぎ(ロ)】

単純な誤字の訂正、あるいは左院の指摘などにもとづく語句の修正・変更など。

では、この結論について、具体的な事例を用いて説明して

みよう。【附紙(A)】、【附紙(B)】、【附紙(C)】、「継ぎはぎ(イ)」という特徴を備えている D 12 条を例にとつて考えたい。同条には、以下のような継ぎはぎ、附紙がみられる。

【附紙(A)】 總監合炊配與ノ例多キヲ以宜ク其制ヲ用ユベ  
キニ似タリ

【附紙(B)】 以下ワリ註之通改正仕度事

【附紙(C)】 食糧ハ五人ヲ一伍ト爲ス内一人炊事ヲ執ル五  
人輪炊五日ニシテ初メニ復ル或ハ總監合炊シ

テ配與セシム

【継ぎはぎ(イ)】 一食糧ハ五人ヲ一伍ト爲ス内一人炊事ヲ  
執ル五人輪炊五日ニシテ初メニ復ル

輪炊ハヲ用フシ炊及ヒ炊  
アレハ合配與ハニ復ラベシ

未決監及ヒ炊  
場台是ナラハ

まず、【附紙(A)】をみていただきたい。第一丁に、左院を発信者とする「附紙之外異存無之候事」との記述がある旨は先に述べたが、「監獄則案」本文と異なる筆跡の附紙は、これが左院の審査時に付されたものであることをうかがわせる。つまり、【附紙(A)】は左院の審査によつて指摘された修正点と考えることができよう。

では、「監獄則案」に記されていた原文はどのような内容だったのか。左院の指摘が「總監合炊配與ノ例多キヲ以宜ク其制ヲ用ユベキ」、つまり未決勾留中の者たちの食事

に際して、全員分を一括して炊事・配膳しているケースが多いため、そうした方法を用いるべきだ、と述べているからには、原文はこの指摘とは異なる内容をもっていたものと考えられる。ここで【継ぎはぎ(イ)】および【附紙(C)】をみてみると、いずれも「合炊配與」の方法に言及しており、これだけではどちらが原文に相当するか判別しにくい。しかし、ここで【附紙(B)】の存在に着目することによつて、両者の先後関係が明らかになる。

【附紙(B)】は【附紙(C)】の上から、しかも「或ハ總監合炊シテ配與セシム」との部分に被せる形で貼付されている。

また、【附紙(B)】は「以下ワリ註之通改正仕度事」との内容であり、つまり改正によつて「或ハ總監合炊シテ配與セシム」の部分を「ワリ註」に変更したものと考えられよう。したがって、割注のない【附紙(C)】が原文であり、割注の付された【継ぎはぎ(イ)】は修正後の条文ということになる。改めてまとめてみると、D 12 条の原文・審査・修正の過程は以下になる。まず、原文には【附紙(C)】にある

食糧ハ五人ヲ一伍ト爲ス内一人炊事ヲ執ル五人輪炊五  
日ニシテ初メニ復ル或ハ總監合炊シテ配與セシム

との内容が記されていた。しかし、左院の審査によつて

「合炊配與」の方法をより一般的に用いるべきとの指摘がなされ、これが【附紙(A)】、

總監合炊配與ノ例多キヲ以宜ク其制ヲ用ユベキニ似タリ

によって伝えられた。この指摘を受けた司法省では一旦原文を引き取り、【継ぎはぎ(イ)】を施すことによって条文を修正した。修正後の条文が、

一 食糧ハ五人ヲ一伍ト爲ス内一人炊事ヲ執ル五人輪炊  
五日ニシテ初メニ復ル未決監及ヒ炊場有違ナラハ輪炊法ヲ用ユ若シ  
シテ火災ノ恐レアレハ合炊配與法ニ復テヘシ<sup>(36)</sup>  
である。なお、修正箇所を明らかにするために司法省は

【附紙(B)】を付したとみられ、そこには

以下ワリ註之通改正仕度事

と記されている。つまり司法省は【附紙(B)】によって、割注部分が原文からの変更点であることを注記したのである。さらに、条文の内容をみると、修正が、左院の指摘を踏まえて行われたことを確認できる。原文では、五人単位で炊事を行う「輪炊法」と、一括して炊事を行う「合炊配與法」とが並列の関係として記されていた。これに対して、左院は「合炊配與法」を進んで採用すべきという趣旨の意見を加えたわけである。修正後の割注をみてみると、「未決監及ヒ炊場石造ナラハ輪炊法ヲ用ユ若シ火災ノ恐レアレ

ハ合炊配與法ニ從フヘシ」と記されている。これは「輪炊法」を採用するにあつた条件を定めたものだが、現実には当時、石造の炊場が整備されている監獄は皆無であり<sup>(37)</sup>、この割注は、実質的に「合炊配與法」による炊事を定めたに等しいのである。

さて、以上で附紙・継ぎはぎの意味についてはほぼつかめたかと思うが、こうした分析を通じて、本史料の成立時期も絞り込むことができる。この点については、Ck4条を素材として説明したい。Ck4条には、左院が指摘した修正箇所とおぼしき【附紙(A)】が貼付されており、そこには「朔望及ヒ休暇日ハ只休暇日トナシテ可ナルベシ」と記されている。つまり、左院での審査が行われた際、原文には（たとえ当該条文中でなくとも、少なくとも「監獄則案」中のどこかに）休暇日を意味する用語として、「朔望」および「休暇日」という二つの語句が用いられていたことをうかがわせる。しかし、「監獄則案」本文のどこをみても、「朔望」という語句は確認することができない。このことはつまり、左院による審査のうちに、左院の指摘を反映した形で「監獄則案」が修正されたことを示すものといえよう。すなわち、「監獄則案」本文は、三月一七日以降に修正されているということである。次いで、本史料が成

立した時期の下限を考えてみよう。先に、第二丁にあった「裁」の印影と、「伺之通」との朱書きやその傍らの日付から、本史料は実際に太政官へ提出された原本である可能性が高いと述べた。そうであるとするならば、一旦裁可を受けたのち、原本に修正が加えられたとは考えにくい。仮に、左院の審査を踏まえて修正された「監獄則案」に対し、さらにいずれかの部局で審査が行われ、修正箇所を指摘されたとしても、やはりそれらの修正を待って、裁可されるものと考えるのが自然であろう。したがって本史料成立時期の下限は、「監獄則案」が裁可された三月二十七日とすることができ。つまり「監獄則案」は、左院の審査を経た明治五年三月一七日以降、太政官がこれについて「伺之通」と指令する三月二十七日までの一〇日間に、現在のような内容をもつにいたったものと考えられるのである。

#### 4 本史料の意義

では、本史料を活用することによって、明治初期の行刑史、および「監獄則并図式」をめぐる研究に、いかなる寄与をなしうるのだろうか。以下では、本史料を紹介することの意義を二つの観点から強調するとともに、今後の展

望・課題についてもごく大まかにまとめておきたい。

まず、本史料によって、「監獄則并図式」の編纂過程を従来よりも詳しくみてとることが可能になった点を挙げられる。第1・2節で述べたとおり、「監獄則并図式」の編纂過程、および草案や修正内容については、これまでほとんど知られていなかった。このため、編纂に関与した小原重哉が香港・シンガポールへの出張を経て「監獄則并図式」を編纂したことを重くみて、本法令が「レポート的(出張復命書的)性格」<sup>(38)</sup>であると捉える見解が一般的であり、編纂段階での審査・修正について言及した先行研究は存在しない。

しかし、本史料の存在を通して、「監獄則」草案の完成以降、実際には何段階かの審査・修正を経てそれが頒布されるに至ったであろうという認識を得ることができた。例えば、明治五年三月に左院で実質的な審査が行われ、これを踏まえて草案が修正されたという事実や、「監獄則案」が裁可されたのち、頒布にいたるまでの約半年間に、条文のさらなる修正や追加が行われていることは、本史料によってはじめて判明した事柄である。これらの成果は、「監獄則并図式」の制定にあたって小原個人の存在やその関与を重視してきた従来の評価に修正を迫るものであろう。

ただし、本史料をもってしても、知りえたのは編纂過程のほんの輪郭に過ぎない。本史料には、「監獄則」の編纂関係者に関する情報が一切なく、小原以外の関係者が不明であるという現状は変わっていない。また、「監獄則案」の原文が左院の審査後に修正された際、これらがすべて左院の指摘にもとづく修正であつたのか、あるいは司法省が自発的に修正した条文があるのかについても確認できていない。さらに、「監獄則案」が裁可された三月二七日以後、「監獄則并図式」が頒布されるまでの約半年間に行われた条文の修正・追加が、いつ、誰の手によってなされたのかという点も、手がかりのないままである。これらの点については、当時の太政官や司法省における法令制定手続き、あるいは政治状況を踏まえるとともに、同時期に編纂された法令や施行中の法令との関係を精査した上で論じる必要がある。

さらに、本史料を紹介する第二の意義としては、「監獄則」の草案および修正箇所など、頒布にいたるまでの内容の変化を把握できることが挙げられる。先にも述べたように、本史料の分析を通じて、明治五年三月と、それ以後頒布にいたるまで、大きく分けて二段階の修正・追加が行われていることは確認できたが、そこから判明した修正内容

には、従来の研究成果に大きく影響を与えるものも存在する。例えば、「監獄則并図式」の理念を表したものととして有名な緒言には、

獄トハ何ソ罪人ヲ禁鎖シテ之ヲ懲戒セシムル所以ナリ  
獄ハ人ヲ仁愛スル所以ニシテ人ヲ殘虐スル者ニ非ス人  
ヲ懲戒スル所以ニシテ人ヲ痛苦スル者ニ非ス

刑ヲ用ルハ<sup>(マツ)</sup>已ヲ得サルニ出ツ國ノ爲メニ害ヲ除ク所以ナリ獄司欽テ此意ヲ體シ罪囚ヲ遇ス可シ<sup>(39)</sup>

とあり、このことをもって「旧幕府以来の威嚇的刑政の実情に対して（中略）教化主義による刑政の原点となつた」<sup>(40)</sup>

など、刑政観の転換をみてとる見解があつた。しかし、

「監獄則案」本文には「一人ヲ罰シテ萬人ヲ懲スヲ要トス」<sup>(41)</sup>

との文言が存在しており、刑政観の明確な転換までは打ち出せていない。つまり、こうした転換が図られたのは、小原ら司法省側が最初に「監獄則案」を編纂した時点ではなく、同案が裁可を経たのち、何者かの手で修正がなされた結果であつたということができる。

このほかにも、条文の修正や新設が行われた箇所に、当時の太政官および司法省の政策や、処遇の実情を反映したとみられる点も数多い。詳細は今後のさらなる考察を待つ必要があるが、例えばD6条では、裁可を得たのちに、未

決勾留中の者による書信の贈答にあたつて裁判官が関与するという内容が追加されている。こうした変更には、明治五年当時に司法省が企図していた司法制度改革<sup>(12)</sup>や、それに伴う処遇の改善が反映された可能性を指摘できよう。また、「本文之通増補仕度事」との附紙が貼付された箇所などは、最新の単行法令を踏まえて新たに条文が追加された可能性がある。従来、「刑法典など他の法制との関連性を大きく欠き立法された獄制である<sup>(13)</sup>」として、実効性にも疑問がもたれてきた「監獄則并図式」であるが、頒布までに審査・修正が繰り返されているという事実は、これまでの通説とは異なる側面があることを示しているよう。

今後、本史料を通じて判明した修正点の細部に検討を加えることで、それぞれの修正・追加がおおよそどの時期に行われたかを把握し、ひいては「監獄則并図式」の編纂過程をより明らかにすることができるとであろう。また、同法令のもつ性格や実効性についても、新たな見解を提示することができると考える。

以上、本稿では国立公文書館の所蔵にかかる『監獄則案聴訟規則』をとりあげ、主としてそのうちの「監獄則案」を紹介するとともに、本史料が今後の近代行刑史研究に果たしうる役割について言及してきた。本稿ではごく大まか

な事実の確認と問題提起をしえたに過ぎなかったが、今後、共著者の一人である児玉は、「監獄則案」および「監獄則并図式」についてのより詳細な分析を試みたい。もって、児玉が取り組みつつある明治初期監獄制度の研究に、基本法令の側面からも迫りたいと考える<sup>(15)</sup>。

(1) 「監獄則并図式」が頒布された期日やその法令形式については、現在のところ見解の一致をみていない。なぜなら、内閣記録局編『法規分類大全 治罪門二 第一編』(二八九年一月、一九八〇年二月覆刻)・六二頁には「達<sup>九年十一月十九日</sup> 第三百七十八号府県」とあり、内閣官報局『法令全書 明治五年』(二八八九年一月)・三六二頁には「第三百七十八号(十一月二十七日)(布)」と記載されていることから、先行研究においても、引用した史料にしたがってまちまちの頒布期日・法令形式が記されているのである。本稿では、国立公文書館所蔵『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺において、裁可された期日、および布告文に添えられた日付が双方とも「壬申十一月廿八日」とされていること、さらには『公文録』所載史料中に「第三百七十八号布告」との記述があることをもって、ひとまず該布告の頒布期日を明治五年十一月二八日、法令形式を布告としておきたい。

(2) 法令全文は、前掲『法規分類大全 治罪門二 第一

編・六二頁以下、もしくは前掲・『法令全書 明治五年』・三六二頁以下で確認できる。

(3) 「監獄則并図式」に対するこのような評価は、すでに明治年間から見ることもできる。例えば小河滋次郎『監獄法講義』（一九二二年二月、一九六七年五月復刻）・一頁以下では、「監獄則并図式」について「我國ニ於テ文明的獄制ノ成典アルヲ見ルハ実ニ是ヲ以テ創始トス」と記されている。

(4) 明治前期の監獄制度を論じ、かつ「監獄則并図式」へも言及する代表的な文献として、財団法人刑務協会編『日本近世行刑史稿 下』（一九四三年七月、一九七四年二月復刻）、『刑罰の理論と現実』（一九七二年二月）所収平松義郎「刑罰の歴史——日本（近代自由刑の成立）——」・三一頁以下、手塚豊『明治刑法史の研究（下）』（一九八六年六月）所収「明治二十年・罪石事件の一考察」・八七頁以下、安丸良夫「一揆・監獄・コスモロジー・周縁性の歴史学」（一九九九年一〇月）所収「監獄」の誕生・六三頁以下、小野義秀『日本行刑史散策』（二〇〇二年七月）、重松一義『日本獄制史の研究』（二〇〇五年一月）などを挙げることもできる。

(5) 「監獄則并図式」に示された各条文の内容について解説を試みた先行研究として、例えば重松一義『近代監獄則の推移と解説——現行監獄法への史的アプローチ——』

（一九七九年九月）がある。また、条文の典拠やその後における制度の推移などについて扱った研究として、安形静男『社会内処遇の形成と展開』（二〇〇五年三月）所収「懲治監に関する一考察」・三三頁以下、重松一義『少年懲戒教育史 日本立法資料全集 別巻一九六』（二〇〇〇年一二月）所収「明治初期の幼年者仕置」・一一六頁以下などを挙げることもできる。

(6) 国立公文書館所蔵『記録材料・監獄則案聴訟規則』（本館12A/035101/記00541100）。

(7) 内閣官報局『法令全書 明治六年』（一八八九年五月・三二〇頁以下）。

(8) 一方、本史料の後半部分に記されている「聴訟規則」については事情が異なる。「監獄則并図式」は、管見のおよぶ限りにおいて、『公文録』中にその草案らしき史料を発見することができなかったが、「聴訟規則」およびこれと関係の深い「訴答文例」については、『公文録』中に草案が存在しており（前掲・『公文録』・壬申三月司法省伺・詞訟法則伺）、先行研究においてもすでに紹介されている。例えば、石川明・石渡哲『明治五年・聴訟規則（原告条例・被告条例・附録）』（『法学研究』第四四巻第五号・八一頁以下、一九七一年五月）、瀧川毅一『日本裁判制度史論考』（一九九一年一月）所収「訴答文例小考補遺」・七五頁以下などを参照のこと。したがって、本稿では「聴訟規

則」には深く立ち入らず、従来その存在が一切知られていなかった「監獄則案」を主たる考察対象とした。

(9) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺。該伺の存在については、すでに共著者の一人である児玉が「行刑の管轄をめぐる司法省の見解について——司法省設置から内務省設置までを対象として——」(『法学政治学論究』第六三号・二九三頁以下、二〇〇四年一二月)の中でふれているが、「監獄則并図式」の編纂過程との関係では本稿が初出となる。

(10) 我部政男・広瀬順昭『国立公文書館所蔵 勅奏任官履歴原書・下巻』(一九九五年六月)・一五七頁。なお、小原重哉は「監獄則并図式」の編纂にあたって中心的な役割を果たした人物と考えられており、「監獄則草案取調主管」に任じられる直前、明治四年六月から八月にかけて香港とシンガポールへ出張し、現地の獄制視察を行っている。このことについてふれた研究も多く存在するが、最も精緻な考証が加えられたものとして、手塚豊編『近代日本史の新研究Ⅶ』(一九八九年二月)所収根本敬彦「明治二年・英国人「ホーイ」殺害事件考——明治五年監獄則制定の端緒——」・二〇五頁以下を挙げる。ことができる。

(11) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺、および前掲・『法規分類大全 治罪門二第一編』・一〇五頁。

(12) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺、および前掲・『法規分類大全 治罪門二第一編』・一〇五頁。

(13) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺。

(14) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺、および前掲・『法規分類大全 治罪門二第一編』・一〇五頁。

(15) 三月二日に提起された司法省伺に対して、三月一七日に左院がなした「司法省伺ノ通異存無之候事」との回答、および同月二七日に正院から司法省に下された「伺之通」との指令が、司法省伺が求めた事柄のうち何に対するものなのか、『法規分類大全』や『公文録』に掲載された史料からは判然としない。「監獄則」そのものと密接に関わっている可能性もあるわけだが(現に本稿第三節ではその点について検証する)、本文中でも述べたとおり、司法省伺は東京府における獄舎建築や、全国的な監獄制度の統一に向けた手順など多岐にわたる内容を含んでいるため、「監獄則」がそれらとどのように関わっているのかを判断できないのである。

(16) なお前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺にはこのほか、司法省が正院にあてた三月二四日付の文書と、これへの対応が掲載されている。そ

こには、「監獄則」に添付した図表に訂正すべき点があるとして、司法省が絵図類の取り下げを希望したこと、および、正院がそれらの絵図類を即刻返却したことが記されている。

(17) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺、および前掲・『法規分類大全 治罪門二第一編』・一〇五頁。

(18) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺、および前掲・『法規分類大全 治罪門二第一編』・一〇五頁。

(19) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺、および前掲・『法規分類大全 治罪門二第一編』・一〇五頁以下。

(20) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺。

(21) 司法省が提出した布告案には法令の名称として「監獄則」と記されているが、頒布する段階で「井図式」が挿入されている。したがって、「監獄則井図式」という呼称は頒布に伴う布告文ではじめて用いられたものとみてよいであろう。

(22) 前掲・『公文録』・壬申十一月司法省伺・獄舎建築并監獄則御頒布伺。

(23) このほか、明治五年二月に監獄則や図式についての復

命書を政府に提出したとする小原重哉の回顧談（小原重哉「元老院議員小原重哉君講話（元）」（『大日本監獄協会雑誌』第四三号・二〇頁）や、明治五年七月二二日に「監獄則草案並図式按」が進奏されたとする記述（司法省編『司法沿革誌』（一九三九年一〇月、一九七九年八月復刻）・一七頁）も存在するが、いずれもこのことを証明する一次史料を確認できていないため、本稿では掲げなかった。

(24) 前掲・『記録材料・監獄則案聴訟規則』。請求記号は本館—2A/035101/記00541100。

(25) 「昭和四十六年総理府移管記録材料」の目録は、二〇〇六年一一月現在、国立公文書館において青色のファイル二冊に分冊されており、同所での閲覧が可能である。また、国立公文書館のデジタルアーカイブ・システムによる検索も可能で、本史料は公文書Ⅴ内閣・総理府Ⅴ太政官・内閣関係Ⅴ第十一類 記録材料に位置している。

(26) 本史料のように青色の表紙を持つ簿冊の性質については、中野目徹『近代史料学の射程——明治太政官文書研究序説』（二〇〇〇年二月）所収「青表紙文書」の復元とその史料的位置・八五頁以下に詳しい。なお、同論文八八頁に掲げられた「表6」には、「監獄則案 聴訟規則」との簿冊標題もみえ、本史料がいわゆる「青表紙文書」の一部であることを確認できる。

(27) 本史料の表紙には、このほかにも右上に朱書きで「兌坤八十五」との文字が付されており、また分類記号の記載されたラベルが二箇所貼付されている。前者の文字については前掲中野目・『近代史料学の射程』所収「青表紙文書」の復元とその史料的位置・八七頁以下に言及がある。後者のラベルについては整理作業の際などに付されたものと考えられるが、その時期や意味については詳細な調査を行っていないため、ここでは深く立ち入らない。

(28) ここには、「左院」と記した朱印が捺されている。

(29) 本稿では、罫紙一丁の中央部にある罫線を指す用語として、西川誠「左院における公文書処理——左院の機能に関する一考察——」（『日本歴史』第五二八号・六六頁以下、一九九二年五月）・七〇頁などにみられる中央罫線との語句を用いた。

(30) 番号は、「九十八」にはじまって「百八十四」に終わる。簿冊全体で九六丁あるのに、通し番号は八六しか存在しないわけだが、これは「百廿三」丁の次を「百廿四」丁と誤記したことにより、一〇丁分の誤差が生じているためである（つまり「百廿四」丁から「百廿三」丁までが二度繰り返されている）。なお、第一丁に「九十八」とあるからには、番号が付された時点で、それより前に「九十七」までの番号が付された別史料が綴られていたと考えるのが自然であろう。このことは、本簿冊が当初から現在の

ままの形で存在していたのではなく、いずれかの段階で編綴され直したことを意味している。

(31) 「裁」の字の印影が天皇の裁可印であることについては、前掲中野目・『近代史料学の射程』所収「明治十二年の太政官制改革——「官符原案」を手がかりとして——」・一〇九頁以下、および前掲西川・「左院における公文書処理」・七〇頁を手がかりとしたほか、二〇〇六年九月三〇日に慶應義塾大学で行われた法制史学会東京部会の場合において、中野目徹氏がなされた発言に示唆を得た。

(32) もちろん、このことをふまえても、三月二七日に太政官が示した「伺之通」という指令が、「監獄則案」の裁可のみを意味したものとは断定できない。例えば、東京府における獄舎の建築も、三月二日の司法省伺、および三月二七日の太政官による指令をふまえて進められているのである。『公文録』所載史料にみられる「伺之通」とは、「監獄則案」の裁可のみではなく、より広い内容を含んでいた可能性があるといえよう。

(33) 後述する附紙や、継ぎはぎが施された箇所を除けば、概ね一行一六字に統一されている。

(34) 本稿で「監獄則案」の条文を示す際には、後に掲げる『法規分類大全』所載「監獄則」・『監獄則案聴訟規則』所載「監獄則案」対照表において便宜的に付した記号・番号を用いることとする。

(35) 原文から修正された箇所が、すべて左院の指摘にもと

づく修正であつたとは断言できない。なせなら、左院の指摘であることをうかがわせる【附紙(A)】は二箇所しか貼付されていないのに、修正が施されたことを示す【附紙(B)】や【継ぎはぎ(Y)】はより多く存在しており、【附紙(A)】が貼付されていない部分について、誰の主導で修正されたのか判断できないためである。例えば、左院の審査を経たのちに、司法省が独自の判断で条文に修正を加え、太政官に再提出した可能性などか考えられよう。

(36) 後掲の対照表をみると、修正後の「監獄則案」D12条は、頒布された「監獄則」のD12条とほぼ一致している。このことから、【継ぎはぎ(Y)】が修正後の条文であることが分かる。

(37) 前掲財団法人刑務協会編・『日本近世行刑史稿』下・

四二四頁には、「就中該監獄則の主要目標の一たる洋式獄舎の建築の如きは容易に之が実現を見るに至らず爾来明治十一年に至る六箇年間に僅に鍛冶橋監倉の新築、埼玉県監獄署の新営、並に伝馬町囚獄の移築竣工を以て満足せざるべからざるの状態であつた」と記されている。このことから当時、「監獄則并図式」にもとづく石造獄舎は極めて限られた存在であり、一般的には旧来通りの木造獄舎が用いられていたことがえよう。

(38) 前掲重松・『日本獄制史の研究』所収「幕末維新期の

獄制改革思潮と監獄則の思想的原点——西歐式近代獄制を求め英国植民地監獄を視察——」・二一八頁。

(39) 前掲・『法規分類大全 治罪門二 第一編』・六二頁。

(40) 前掲平松・『刑罰の歴史』・六九頁。

(41) 前掲・『記録材料・監獄則案聴訟規則』。

(42) 明治五年の司法制度改革をあつかった先行業績は数多く存在するが、ここでは一例として、菊山正明「明治国家の形成と司法制度」(一九九三年二月)所収「江藤新平の司法改革」・一四三頁以下を挙げておく。

(43) 「本文之通増補仕度事」と記された附紙は、Cj5条とCj6条の間、Eg1条とEg2条の間にみられる。

(44) 前掲重松・『日本獄制史の研究』所収「明治五年の監獄則並図式の頒布——人道的獄制を掲げた巻頭言と監獄原理——」・二二七頁。

(45) 兒玉の問題意識は、二〇〇六年度第三六回明治維新史学会大会報告「明治初期における地方監獄の成立と展開」(二〇〇六年六月一日、於専修大学)において示したものである。また、同様の観点から、兒玉圭司「明治初期における山口県監獄の成立と展開」(『山口県地方史研究』第九五号・四五頁以下、二〇〇六年六月)を記している。

(46) 本稿において引用する史料に、合字・変体仮名等が用いられている場合は、すべて新字に改めて表記した。また、諸先学の業績引用に際し、単行書に収録された論文につい

て、各論題に冠せられた「章」および「節」といった表記は省略し、また複数回にわたり同一論文名を掲げる際は、

副題を付さないこととした。各位のご海容を乞う次第である。

## 『法規分類大全』所載「監獄則」・『監獄則案聴訟規則』所載「監獄則案」対照表

### 《凡例》

- ・上段に掲げた「監獄則」は内閣記録局編『法規分類大全 治罪門一 第一編』（一八九一年一月、一九八〇年二月復刻）六二七七頁を、下段に掲げた「監獄則案」は国立公文書館所蔵『記録材料・監獄則案聴訟規則』（本館―2 A/035101/記00541100）第三―四三丁を、それぞれ底本として用いた。
- ・検索の便を図るため、条文・項目ごとに枠線で区切り、記号・番号を付した。アルファベットの大文字は「大綱」などの大見出しに、アルファベットの小文字は各条文に、英数字は一つの条文に含まれる各項目に、それぞれ対応する形で付されている。
- ・附紙は、「―」を用いて関連する項目の末尾に示した。なお、「監獄則案」本文と同じ筆跡で記された附紙は明朝体とし、左院審査段階で貼付されたと思われる、「監獄則案」本文とは異なる筆跡の附紙はゴシック体とした。
- ・罫紙に継ぎはぎが施されている箇所は、網掛け（―）によって示した。
- ・頒布された「監獄則」と、草案である「監獄則案」とで内容の異なる部分は、太字で示した。
- ・用字・ルビについては原則として原文のまま記した。ただし、合字や変体仮名については普通の仮名に改めた。明らかな誤字・脱字等がある場合も原文のまま表記し、その傍らに筆者の手で（ママ）と加えた。
- ・朱書きや頭註など、史料の態様をそのまま反映することができなかった部分、および説明を要する箇所については、適宜【―】などを用いて表記した上、文末註において説明を加えた。

|                                                                                                                                  | A                                                                                                                                | B                                                            | C                   | C a                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 監獄則案                                                                                                                             | 緒言                                                                                                                               | 網領                                                           | 1                   | 1                                                                                                                                                |
| 監獄則                                                                                                                              | 緒言                                                                                                                               | 網領                                                           | 1                   | 1                                                                                                                                                |
| 獄トハ何ソ罪人ヲ禁鎖シ且之ヲ懲戒セシムル所以ナリ<br>獄ハ人ヲ殘虐スル者ニ非ス人ヲ仁愛スルモノナリ人ヲ痛苦スル者ニ非ス人ヲ懲戒スルモノナリ<br>刑ヲ用ルハ不得已ニ出ツ國ノ為メニ害ヲ除ク所以ナリ<br>一人ヲ罰シテ萬人ヲ懲スヲ要トス獄司欽テ此意ヲ體スベシ | 獄トハ何ソ罪人ヲ禁鎖シテ之ヲ懲戒セシムル所以ナリ<br>獄ハ人ヲ殘虐スル者ニ非ス人ヲ仁愛スル者ニ非ス人ヲ懲戒スル所以ニシテ人ヲ痛苦スル者ニ非ス<br>刑ヲ用ルハ已ヲ得サルニ出ツ國ノ爲メニ害ヲ除ク所以ナリ獄司欽テ此意ヲ體シ罪囚ヲ遇ス可シ            | 獄二七大綱アリ曰興造曰繫獄曰懲役曰疾病 <small>附死亡曰處刑</small> 曰官員曰雜則其詳ナルコトハ條目ニ悉ス | ○興造十二條<br><br>第一條規模 | 監獄ハ市街ヲ隔テタル空閑高燥ノ地ヲトシ其區域ヲ大ニスヘシ圖式ニ見ユル所ノ各遊園中縱橫ノ小徑ニ砂石ヲ布キ左右ノ餘地ニ藥草及美花佳實アルノ草木ヲ雜植シ罪囚ヲシテ心神ヲ怡ハシ新鮮ノ氣ヲ吸入セシメ且販賣ノ一利ト爲ス<br><small>各舎ノ位置構造方法ハ圖式第二號及七附圖ニ見ユ</small> |
| 監獄則案                                                                                                                             | 緒言                                                                                                                               | 網領                                                           | 1                   | 1                                                                                                                                                |
| 獄トハ何ソ罪人ヲ禁鎖シ且之ヲ懲戒セシムル所以ナリ<br>獄ハ人ヲ殘虐スル者ニ非ス人ヲ仁愛スルモノナリ人ヲ痛苦スル者ニ非ス人ヲ懲戒スルモノナリ<br>刑ヲ用ルハ不得已ニ出ツ國ノ為メニ害ヲ除ク所以ナリ<br>一人ヲ罰シテ萬人ヲ懲スヲ要トス獄司欽テ此意ヲ體スベシ | 獄トハ何ソ罪人ヲ禁鎖シ且之ヲ懲戒セシムル所以ナリ<br>獄ハ人ヲ殘虐スル者ニ非ス人ヲ仁愛スルモノナリ人ヲ痛苦スル者ニ非ス人ヲ懲戒スルモノナリ<br>刑ヲ用ルハ不得已ニ出ツ國ノ為メニ害ヲ除ク所以ナリ<br>一人ヲ罰シテ萬人ヲ懲スヲ要トス獄司欽テ此意ヲ體スベシ | 獄二七大綱アリ曰興造曰繫獄曰懲役曰疾病 <small>附死亡曰處刑</small> 曰官員曰雜則其詳ナルコトハ條目ニ悉ス | ○興造十二條<br><br>第一條規模 | 監獄ハ市街ヲ隔テタル空閑高燥ノ地ヲトスヘシ各舎ノ位置ハ圖式ニ詳ナリ各遊園中縱橫ノ小徑ニ細砂ヲ布キ左右ノ餘地ニ藥草及美花佳實アルノ樹ヲ雜植シ罪囚ヲシテ心神ヲ怡ハシ新鮮ノ氣ヲ呼吸セシメ且販賣ノ一利ト爲ス                                              |



|                             |                                                                                            |                                                                                            |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                  |                                         |                                                                                                                                       |                                                                                                                                       |  |  |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
|                             |                                                                                            |                                                                                            |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                  |                                         |                                                                                                                                       |                                                                                                                                       |  |  |
| ク                           | 6                                                                                          | 7                                                                                          | 8                                                                                                                                                                | 9                                                                                                                                                                | 1                                       | 2                                                                                                                                     |                                                                                                                                       |  |  |
| 房ノ四壁皆壁土ヲ塗り塵埃ヲ滯メス且光線ノ反射ヲ生セシム | 一囚ノ房一丈立方ト爲ス<br><small>英人ノ説ニ人ノ居る方尺「然トモナラサレハ康健ニ害アリ」ト云フ然トモ</small><br>一房ニ三人五人ヲ容ル、モノハ之ニ準シ斟酌スヘシ | 二層三層ノ床ハ堅牢ノ板ヲ用フ最下ハ土床ニシテ石或ハ煉化石ヲ用ヒ三和土ヲ埴埴シテ填實スヘシ                                               | 凡衆犯畫ハ出シテ各工役ニ就ケ日暮ハ各其房ニ入レ關鎖ス每房容ル者ハ只臥具ト大中小ノ三桶トノミ<br><small>ハ便器ニシテ蓋アリ以テ蓋見ヲ防ク中桶ハ水ヲ盛ル以テ臥具ト供ス小桶ハ唾器毎朝「出」ニ付日汚穢ヲ洗滌ス</small><br>トヲ許サス<br><small>第三桶製造方圖式<br/>第一號ニ見ユ</small> | 第二條未決者ノ監                                                                                                                                                         | 監獄ノ制及ヒ運動場ヲ置ク等他ノ獄舎ニ異ラス只未決者ハ已決者ト相交ルヲ禁スルノミ | 凡浴場炊所厠園所等ノ制ハ一小屋ヲ運動場中ニ建テ内ニ煉化石ヲ疊ミ壁ヲ築キ以テ中分ノ界トス其一半ヲ炊所トシ餘ノ一半又之ヲ分テ二ト爲ス一ヲ浴場トシ一ヲ厠園ト爲ス<br><small>凡囚人ハ未決者伍ヲ結ビ輪番シテ食ヲ作ルコト要獄條ニ見ユ</small><br>又別ニ浴場ヲ |                                                                                                                                       |  |  |
| ク                           | 房ノ四壁皆壁土ヲ塗り塵埃ヲ滯メス且ツ光線ノ反射ヲ生セシム                                                               | 一囚ノ房一丈立方ト爲ス<br><small>英人ノ説ニ人ノ居る方尺「然トモナラサレハ康健ニ害アリ」ト云フ然トモ</small><br>一房ニ三人五人ヲ容ル、モノハ之ニ準シ斟酌スヘシ | 二層三層ノ床ハ堅牢ノ板ヲ用フ最下ハ土床ニシテ石或ハ煉化石ヲ用ヒ三和土ヲ埴埴シテ填實スヘシ                                                                                                                     | 凡衆犯畫ハ出シテ各工役ニ就ケ日暮ハ各其房ニ入レ關鎖ス每房容ル者ハ只臥具ト大中小ノ三桶トノミ<br><small>ハ便器ニシテ蓋アリ以テ蓋見ヲ防ク中桶ハ水ヲ盛ル以テ臥具ト供ス小桶ハ唾器毎朝「出」ニ付日汚穢ヲ洗滌ス</small><br>トヲ許サス<br><small>第三桶製造方圖式<br/>第二號ニ見ユ</small> | 第二條未決者ノ監                                | 監獄ノ制及ヒ運動場ヲ置ク等他ノ獄舎ニ異ラス只未決者ハ已決者ト相交ルヲ禁スルノミ                                                                                               | 凡浴場炊所厠園所等ノ制ハ一小屋ヲ運動場中ニ建テ内ニ煉化石ヲ疊ミ壁ヲ築キ以テ中分ノ界トス其一半ヲ炊所トシ餘ノ一半又之ヲ分テ二ト爲ス一ヲ浴場トシ一ヲ厠園ト爲ス<br><small>凡囚人ハ未決者伍ヲ結ビ輪番シテ食ヲ作ルコト要獄條ニ見ユ</small><br>又別ニ浴場ヲ |  |  |

|                                        |                                                                            | C d    |                                                                           |                                        | C c       |                                                             |                                                             |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 2                                      | 1                                                                          |        | 2                                                                         | 1                                      |           | 3                                                           |                                                             |
| 【附録】 <sup>(2)</sup> 炊室ハ前門ト中門トノ間ニ設ク守兵所ト | 食堂ハ毎獄ノ下層ニ設ク長飯案及ヒ長椅子ヲ置ク役囚ヲシテ會食セシム若シ其食堂ナキモノハ之ヲ運動工役場中ニ食セシム若シ犯人ノ混淆ヲ忌ムモノハ食堂ヲ異ニス | 第四條 食堂 | 已決者ノ監制ハ未決者ノ監ト異ナル無シ但暗室一二ヲ每層ノ旁ニ造テ獄法ニ違ヒ或ハ伴テ疾病ト稱スルモノヲ懲ス暗室中ニ鐵網孔ヲ穿チ空氣ヲ通シテ光線ヲ通セス | 役囚懲役場ニ出テ工ニ服スル者ハ嚴ニ其疆域ヲ區別シ未決者ト往來混淆スルヲ聽サス | 第三條 已決者ノ監 | 食堂ハ別ニ之ヲ設ク若シ別ニ之ヲ設ケザレハ之ヲ運動場中ニ食セシムルモ亦可ナリ雨日ニハ之ヲ獄舎ノ簷下ニ食セシムルヲ便宜トス | 設ルモ可ナリ炊所浴場共ニ煉化石ヲ以テ之ヲ製スヘシム故ナリ <small>火災ヲ成シム故ナリ</small>       |
| 【附録】 <sup>(3)</sup> 炊室ハ前門ト中門トノ間ニ設ケ守兵所ト | 食堂ハ毎獄ノ下層ニ設ク長飯案及ヒ長椅子ヲ置ク役囚ヲシテ會食セシム若シ其食堂ナキモノハ之ヲ運動工役場中ニ食セシム若シ犯人ノ混淆ヲ忌ムモノハ食堂ヲ異ニス | 第四條 食堂 | 已決者ノ監ハ未決者ノ監ト異ナル無シ但暗室一二ヲ每層ノ旁ニ造テ獄法ニ違ヒ或ハ伴テ疾病ト稱スルモノヲ懲ス暗室中ニ鐵網孔ヲ穿チ空氣ヲ通シテ光線ヲ通セス  | 役囚懲役場ニ出テ工ニ服スル者ハ嚴ニ其疆域ヲ區別シ未決者ト往來混淆スルヲ許サス | 第三條 已決者ノ監 | 食堂ハ別ニ之ヲ設ク若シ別ニ之ヲ設ケザレハ之ヲ運動場中ニ食セシムルモ亦可ナリ雨日ニハ之ヲ獄舎ノ簷下ニ食セシムルヲ便宜トス | 又別ニ浴場ヲ設ルモ可ナリ炊所浴場共ニ煉化石ヲ以テ之ヲ製スヘシム故ナリ <small>火災ヲ成シム故ナリ</small> |

|                         | C<br>f  |                                                                                       |                                   |                                                  |                                              | C<br>e |                                                                                                                                           |
|-------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1                       |         | 4                                                                                     | 3                                 | 2                                                | 1                                            |        |                                                                                                                                           |
| 未決者ハ懲役ヲ命セス故ニ時時獄園ニ出テ逍遙シ花 | 第六條 運動場 | 【附録】 <sup>(4)</sup> 各獄ノ井ハ每井桁ニ堅牢ノ鐵網ヲ蓋フ以テ各犯ノ投没ヲ防ク網中ニ通瓶ノ孔ヲ穿チ以テ水ヲ汲ム瓶綆亦鐵鎖ヲ用ユ豫メ切斷シテ塀ニ縋スルヲ防ク | 浴場石或ハ煉化石ヲ以テ之ヲ造リ失火ヲ防ク焚夫亦犯人ナルヲ以テナリ  | 未決者ノ監ハ每舎ニ浴場ヲ置ク<br><small>各房板壁舎ノ<br/>方ニ設ク</small> | 浴場ノ多少ハ監獄ノ大小ニ由リ二三乃至五六トス毎日犯人ヲシテ役畢テ浴ニ就カシム夏ハ水冬ハ湯 | 第五條 浴場 | 相對ス兩舎共ニ玻璃障ヲ用ヒ守兵ノ坐シテ炊夫ノ動作ヲ洞視シ失火ヲ警メ不法ヲ監督スルニ便ニシ別ニ守兵ヲ置ノ費ヲ省ク但炊夫ハ役因ヲ用フ故ニ一獄丁ヲシテ日ニ炊室ニ在テ之ヲ監視セシム<br>前門ヨリ中門ニ至ルノ間若干間アリ右ヲ獄司ノ宅トシ次ヲ炊室トシ左ヲ副司ノ宅ト爲シ次ヲ守兵所ト爲ス |
| 未決者ハ懲役ヲ命セス故ニ時々獄園ニ出テ逍遙シ花 | 第六條 運動場 | 【附録】 <sup>(5)</sup> 各獄ノ井ハ每井桁ニ堅牢ノ鉄網ヲ蓋フ以テ各犯ノ投没ヲ防ク網中ニ通瓶ノ孔ヲ穿チ以テ水ヲ汲ム瓶綆亦鐵鎖ヲ用ユ豫メ切斷シテ塀ニ縋スルヲ防ク | 浴場ハ石或ハ煉化石ヲ以テ之ヲ造リ失火ヲ防ク焚夫亦犯人ナルヲ以テナリ | 未決者ノ監ハ每舎ニ浴場ヲ置ク<br><small>各房板壁舎ノ<br/>方ニ設ク</small> | 浴場ノ多少ハ監獄ノ大小ニ由リ二三乃至五六トス毎日犯人ヲシテ役畢テ浴ニ就カシム夏ハ水冬ハ湯 | 第五條 浴場 | 相對ス兩舎共ニ玻璃障ヲ用ヒ守兵ノ坐シテ炊夫ノ動作ヲ洞視シ失火ヲ警メ不法ヲ監督スルニ便ニシ別ニ守兵ヲ置ノ費ヲ省ク但炊夫ハ役因ヲ用フ故ニ一守卒ヲシテ日ニ炊室ニ在テ之ヲ監視セシム<br>前門ヨリ中門ニ至ルノ間若干間アリ右ヲ獄司ノ宅トシ次ヲ炊室トシ左ヲ副司ノ宅ト爲シ次ヲ守兵所ト爲ス |

|                                          | C j     |            | C i    |                                                         | C h    |                                                         | C g     |                                                               |
|------------------------------------------|---------|------------|--------|---------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------|
| 1                                        |         | 1          |        | 1                                                       |        | 1                                                       |         |                                                               |
| 他監ニ比スレハ稍寛ナルヘシ                            | 第十條 懲治監 | 以テ病囚ノ遊觀ニ供ス | 第九條 病監 | 女監ハ建築ヲ別ニシ男監ト相接セス其往來ヲ峻拒ス<br>懲役場運動場廁場浴場炊場等ノ如モ亦他監ト同クセ<br>ス | 第八條 女監 | 罪已ニ決シ懲役ニ服スル者ハ各般ノ工業ニ因テ役場<br>ヲ異ニス飲食ノ如キモ亦工業ニ從テ直ニ役場ニ食ス      | 第七條 懲役場 | 樹ニ灌キ藥草ニ培ヒ以テ其身體ヲ養フ已決者ハ毎日<br>服役動作運養以テ其筋骨ヲ健ニス雨日ニハ各獄中ニ<br>テ運動ヲ爲シム |
| 此監亦界區ヲ別チ他監ト往來セシメス罪囚ヲ遇スル<br>他監ニ比スレハ稍寛ナルヘシ | 第十條 懲治監 | 以テ病囚ノ遊觀ニ供ス | 第九條 病監 | 女監ハ建築ヲ別ニシ男監ト相接セス其往來ヲ峻拒ス<br>懲役場運動場廁場浴場炊場等ノ如モ亦他監ト同クセ<br>ス | 第八條 女監 | 罪已ニ決シ懲役ニ服スル者ハ各般ノ工業ニ因テ其役<br>場ヲ異ニス飲食ノ如キモ亦工業ニ從テ直ニ役場ニ食<br>ス | 第七條 懲役場 | 樹ニ灌キ藥草ニ培ヒ以テ其身體ヲ養フ已決者ハ毎日<br>服役動作運養以テ其筋骨ヲ健ニス雨日ニハ各獄中ニ<br>テ運動ヲ爲シム |

|                                                       | C<br>k          |                                                                                                       |                                                                                    |                                                                |                                           |                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1                                                     |                 | 6                                                                                                     | 5                                                                                  | 4                                                              | 3                                         | 2                                                                                                                                |
| <p>場中ニ田畝ヲ闢キ衆役ヲシテ蔬菜ヲ播種シ或ハ牛羊豚雞ヲ畜養シ或ハ牛乳ヲ搾リ羊酪ヲ製シ或ハ總囚及</p> | <p>第十一條 寛役場</p> | <p>脱籍無産復籍シカタキ者本刑懲役ノ限滿チシ後ハ皆此監ニ移シ罪囚ト區別シ工藝ヲ習慣セシメ獨立活計ノ目途ヲ立然ル後本人望ミノ地ヘ入籍セシム<small>（第一等ノ工錢法ニ依テ）</small></p>  | <p>平民罪ヲ犯シ贖罪スヘキ者無力ニシテ情實贖スルコト能ハサルモノ、實決シテ懲役スル如キハ皆此監ニ入ル</p>                            | <p>凡輕囚ヲシテ書籍ヲ習讀シ工業ヲ練熟セシメ能ク艱苦ヲ忍ヒ改心シ以テ才藝ヲ成スモノハ拔擢シテ監獄ノ下吏トスルヲ聽ス</p> | <p>平民其子弟ノ不良ヲ憂フルモノアリ此監ニ入ンコトヲ請フモノハ之ヲ聽ス</p>  | <p>二十歳以下懲役滿期ニ至リ惡心未タ俊ラサル者或ハ貧窶營生ノ計ナク再ヒ惡意ヲ挟ムニ嫌アルモノハ獄司之ヲ懇諭シテ長ク此監ニ留メテ營生ノ業ヲ勉勵セシム<small>（下一歳以上ト雖モ地意改心ヲ挟ム者ハ獄司ヨリ裁判官ニ告ケル此監ニ留ム）</small></p> |
| <p>場中ニ田畝ヲ闢キ衆役ヲシテ蔬菜ヲ播種シ或ハ牛羊豚雞ヲ畜養シ或ハ牛乳ヲ搾リ羊酪ヲ製シ或ハ動物ノ</p> | <p>第十一條 寛役場</p> | <p>脱籍無産復籍シカタキ者本刑懲役ノ限滿チシ後ハ皆此監ニ移シ罪囚ト區別シ工藝ヲ習慣セシメ獨立活計ノ目途ヲ立テ然ル後本人望ミノ地ヘ入籍セシム<small>（第一等ノ工錢法ニ依テ）</small></p> | <p>庶人罪ヲ犯シ贖罪スヘキ者無力ニシテ情實贖スルコト能ハサル者折半實決シテ懲役スル如キハ皆此監ニ入ル<small>（第二等ノ工錢法ニ依テ）</small></p> | <p>凡輕囚ヲシテ書籍ヲ習讀シ工業ヲ練熟セシメ能ク艱苦ヲ忍ヒ改心シ以テ才藝ヲ成スモノハ拔擢シテ監獄ノ下吏トスルヲ聽ス</p> | <p>平民其子弟ノ不良ヲ憂フルモノアリコノ監ニ入ンコトヲ請フモノハ之ヲ聽ス</p> | <p>二十歳以下懲役滿期ニ至リ惡心未タ俊ラサル者或ハ貧窶營生ノ計ナク再ヒ惡意ヲ挟ムニ嫌アルモノハ獄司之ヲ懇諭シテ長ク此監ニ留メテ營生ノ業ヲ勉勵セシム</p>                                                   |

|                                                                                   |                                                                                                                                                             |                                                                                                                              |                                                                                                                 |                                                                                                                  |                                                                                             |                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                   |                                                                                                                                                             | C<br>1                                                                                                                       |                                                                                                                 |                                                                                                                  |                                                                                             |                                                                                      |
| 2                                                                                 | 1                                                                                                                                                           |                                                                                                                              | 5                                                                                                               | 4                                                                                                                | 3                                                                                           | 2                                                                                    |
| <p>ヒ動物ノ糞溺ヲ取テ田畝ヲ培養ス</p> <p>寛役場ハ獄外便利ノ地ヲ擇テ之ヲ設ク其制ハ尋常民舎ニシテ四周ニ垣牆ヲ設ルノミ其役徒ヲ遇スル最寛裕ナル可シ</p> | <p>凡犯人廢疾及ヒ盲人其他服役中疾病ニ罹リ殘疾ニ至ル者ハ尋常役ヲ執シメス皆此場ニ入ル</p> <p>凡犯人廢疾及ヒ盲人其他服役中疾病ニ罹リ殘疾ニ至ル者ハ本役ヲ免シ此場ニ入ル</p> <p>「凡犯罪六十歳以上ノ者懲役ノ刑ニアタリ或ハ少壯ト雖トモ病弱ニシテ懲役ニ堪サル者ノ如キハ此場ニ入レテ役限ヲ終シム」</p> | <p>木<sup>つゝ</sup> 暇日各囚ヲ獄内ニ召シ整列シテ獄司ニ見ヘシム</p> <p>若シ此場ヲ監獄場中ニ設クルトキハ之ヲ石造ニシ火災ノ憂ナカラシム</p> <p>若此場ヲ監獄場中ニ設クル寸ハコレヲ石造ニスヘシ草舎ハ失火延焼ノ憂アリ</p> | <p>第十二條 官署</p> <p>官署ハ中門内ニ設ケ囚人ノ出入必ス其舎前ヲ過ルヲ要ス其廣狹ノ如キハ適宜ニシテ可ナリ</p> <p>獄司及副司以下小吏医ニ至ルマテ毎日出席シテ事ヲ執ル退出ノ後ハ書記官一名輪番ニ宿直ス</p> | <p>第十二條 官署</p> <p>官署ハ中門内ニ設ケ囚人ノ出入必ス其舎前ヲ過クルヲ要ス其廣狹ノ如キハ適宜ニシテ可ナリ</p> <p>獄司及副司以下小吏医ニ至ルマテ毎日出席シテ事ヲ執ル退出ノ後ハ書記官一名輪番ニ宿直ス</p> | <p>寛役場ハ獄外便利ノ地ヲ擇テ之ヲ設ク其制ハ尋常民舎ニシテ四周ニ垣牆ヲ設ルノミ其役徒ヲ遇スル最寛裕ナル可シ</p> <p>「本文之通改正仕度事」<sup>(8)</sup></p> | <p>糞溺及ヒ総獄ノ屎尿ヲ取テ田畝ヲ培養ス</p> <p>寛役場ハ獄外便利ノ地ヲ擇テ之ヲ設ク其制ハ尋常民舎ニシテ四周ニ垣牆ヲ設ルノミ其役徒ヲ遇スル最寛裕ナル可シ</p> |

| D | ○繫獄           |         |         |                                                                                                          |                                                     |                                  |              |                                                                            |
|---|---------------|---------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------|
|   | 1             | 2       | 3       | 4                                                                                                        | 5                                                   | 6                                | 7            | 8                                                                          |
|   | 未決者繫獄中ノ則目左ノ如シ | 一懲役ヲ命セス | 一獄衣ヲ著セス | 一工業ヲ營ント請フ者ハ之ヲ聴シ且其器械ヲ貸シ與フ若シ其人罪ナキニ決スレハ獄中ニ營ム所ノ工錢ハ悉ク之ヲ與フ只器械ノ損價少許ヲ官ニ收ムルノミ若シ罪アルニ決スレハ従前ノ工錢ハ前例ニ從テ之ヲ給シ爾後ハ懲役ノ例ニ入ル  | 一其親戚ヨリ衣食ヲ贈與セント請フモノアレハ之ヲ聴ス但シ食物ハ醫ヲシテ検査セシメ衣服ハ包藏物ヲ嚴查ス   | 一書信ハ囚ノ情願已ヲ得サルコトアレハ獄司裁判官ト商議シテ之ヲ聴ス | 一監中日没後ハ談話ヲ禁ス | 一裁判官其輕罪ナルヲ察スレハ其親戚若クハ故舊兩人以上ニ保責シ證書ヲ納レシメテ其家ニ還ス但證書ニハ若シ囚人遁逃スレハ律法ニ依リ罰ヲ受ク可キコトヲ書載ス |
|   | 未決者繫獄中ノ則目左ノ如シ | 一懲役ヲ命セス | 一獄衣ヲ着セス | 一工業ヲ營ント請フ者ハ之ヲ聴シ且ツ其器械ヲ貸シ與フ若シ其人罪ナキニ決スレハ獄中ニ營ム所ノ工錢ハ悉ク之ヲ與フ只器械ノ損價少許ヲ官ニ收ムルノミ若シ罪アルニ決スレハ従前ノ工錢ハ前例ニ從テ之ヲ給シ爾後ハ懲役ノ例ニ入ル | 一其親戚ヨリ衣食ヲ贈與セント請フモノアレハ之ヲ聴ス但シ食物ハ医ヲシテ之ヲ検査セシメ衣服ハ包藏物ヲ嚴查ス | 一書信ハ獄司其害ノ有無ヲ檢シテ贈答ヲ聴ス             | 一監中日没後ハ談話ヲ禁ス | 一裁判官其輕罪ナルヲ察スレハ其親戚若クハ故舊兩人以上ニ保責シ證書ヲ納レシメテ其家ニ還ス但證書ニハ若シ囚人遁逃スレハ律法ニ依リ罰ヲ受クヘキコトヲ書載ス |

|    |                                                                                                                  | E      | Ea       |                                                                                      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | 一裁判官其重罪ナルヲ察スレハ事毎ニ指揮シテ嚴密ヲ極メシム                                                                                     |        |          |                                                                                      |
| 10 | 一重典ニ處スルノ罪ナシト雖トモ其人奸猾且屢法ヲ犯シテ悔サル者ハ之ヲ處スルコト他ノ輕囚ト同シカラス亦事毎ニ之ヲ嚴ニス                                                        |        |          |                                                                                      |
| 11 | 一各囚毎朝其居ル所ヲ掃除スヘシ                                                                                                  |        |          |                                                                                      |
| 12 | 一食糧ハ五人ヲ一連ト爲ス内一人炊事ヲ執ル五人輪炊五日ニシテ初メニ復ル<br><small>木炭及ヒ炊場石炭ナラハ輪炊法ヲ用ユ<br/>若シ火災ノ恐れアラハ合氣配與法ニ從フ<br/>シ<sup>可</sup></small>  |        |          |                                                                                      |
| 1  | 常囚罪已ニ決スレハ先ツ重鎖ヲ著シ第五等ノ役ヲトシム一百日ヲ經過スレハ第四等ニス、メ輕鎖ヲ著ク四等ノ限ヲ經過スレハ第三等ニ進メ兩 <sup>アシカイ</sup> 欵ヲ著                              | ○懲役十二條 | 第一條 常人懲役 | 常囚罪已ニ決スレハ先ツ重鎖ヲ著シ第五等ノ役ヲトシム一百日ヲ經過スレハ第四等ニ進メ輕鎖ヲ著ス四等ノ限ヲ經過スレハ第三等ニ進メ兩 <sup>アシカイ</sup> 欵ヲ著ス三 |
|    | 一裁判官其重罪ナルヲ察スレハ事毎ニ指揮シテ嚴密ヲ極メシム                                                                                     | ○懲役十二條 | 第一條 常人懲役 | 常囚罪已ニ決スレハ先ツ重鎖ヲ著シ第五等ノ役ヲトシム一百日ヲ經過スレハ第四等ニ進メ輕鎖ヲ著ス四等ノ限ヲ經過スレハ第三等ニ進メ兩 <sup>アシカイ</sup> 欵ヲ著ス三 |
|    | 一重典ニ處スルノ罪ナシト雖トモ其人奸猾且ツ屢法ヲ犯シテ悔サル者ハ之ヲ處ルコト他ノ輕囚ト同シカラス亦事毎ニ之ヲ嚴ニス                                                        |        |          |                                                                                      |
|    | 一各囚毎朝其居ル所ヲ掃除スヘシ                                                                                                  |        |          |                                                                                      |
|    | 一食糧ハ五人ヲ一伍ト爲ス内一人炊事ヲ執ル五人輪炊五日ニシテ初メニ復ル<br><small>木炭及ヒ炊場石炭ナラハ輪炊法ヲ用ユ<br/>若シ火災ノ恐れアラハ合氣配與法ニ從フ<br/>シ<sup>シヘ</sup></small> |        |          |                                                                                      |
|    | 「食糧ハ五人ヲ一伍ト爲ス内一人炊事ヲ執ル五人輪炊五日ニシテ初メニ復ル或ハ總監合炊シテ配與セシム」 <sup>(10)</sup>                                                 |        |          |                                                                                      |
|    | 「以下ワリ註之通改正仕度事」                                                                                                   |        |          |                                                                                      |
|    | 「總監合炊配與ノ例多キヲ以宜ク其制ヲ用ユベキニ似タリ」 <sup>(11)</sup>                                                                      |        |          |                                                                                      |

|                                                                                                                                 | E<br>b        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | E<br>c        |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ス三等ノ限ヲ經過スレハ第二等ニ進メ片鈐ヲ著ス二<br/>等ノ限ヲ經過スレハ第一等ニ進メ戒具ヲ脱ス但監外<br/>出役ノ日諸囚皆長鎖ヲ用ヒ二人一連ト爲ス<br/><small>重鎖輕鎖長鎖<br/>ヲ用ル方圖式<br/>ニ見ユ</small></p> | <p>第二條 殊藝</p> | <p>1<br/>工藝アル罪囚第五等ノ役ヲ經過スレハ其長技ヲ專治<br/>セシム此ヲ殊藝ト名ク殊藝人ヲ分テ上中下三級ト爲<br/>ス異能妙技アル者ハ直チニ上級ニ進ム次ナル者ハ之<br/>ヲ中級ニ置ク又其次ヲ下級ト爲ス<br/><small>分級ハ物價ニ本ノク宜ヘハ<br/>ヲ一級ト爲シ十五錢ヲ中級ト爲<br/>シ五十錢ヲ下級ト爲スノ類ナリ</small><br/>下級ハ兩鈐ヲ用フ中級ハ片鈐ヲ<br/>用フ上級以上戒具ヲ脱ス但長ク下級ニ在ル者ト雖ト<br/>モ常人懲役ノ第四等ノ限ヲ經レハ片鈐ヲ用ユルコト<br/>中級ノ例ノ如シ第三等ノ限ヲ經レハ下級中級共ニ戒<br/>具ヲ脱スルコト上級ノ例ノ如シ</p> | <p>第三條 老幼</p> | <p>1<br/>老幼及ヒ天稟虛弱或ハ病後ノ罪囚ハ始ヨリ輕鎖ヲ著<br/>シ輕役ヲ執シム後チ兩鈐ト爲リ片鈐ト爲リ及ヒ戒具<br/>ヲ脱スルノ限ハ常人懲役法ノ例ノ如シ<br/><small>一、等ハハ常人懲役表ノ凡<br/>白目ト四等ノ百目ト合テ二白目ヲ輕鎖ノ限トス<br/>等ノ如キ第五等ノ<br/>白目ヲ片鈐ノ限トス<br/>等ノ四十五目ヲ戒具ヲ脱スルノ限トス但シ十五歲以下ノ男ハ始<br/>ヲ用ヒス</small><br/>【欄中細註ノ一等日數ハ懲役表欄外附載ノ條ヲ參</p> |
| <p>等ノ限ヲ經過スレハ第二等ニ進メ片鈐ヲ著ス二<br/>等ノ限ヲ經過スレハ第一等ニ進メ戒具ヲ脱ス但監外出役<br/>ノ日諸囚皆長鎖ヲ用ヒ二人一連ト爲ス</p>                                                | <p>第二條殊遇</p>  | <p>工藝アル罪囚第五等ノ役ヲ經過スレハ其長技ヲ專治<br/>セシム此ヲ殊遇ト名ク殊遇人ヲ分テ上中下三級ト爲<br/>ス異能妙技アル者ハ直チニ上級ニ進ム次ナル者ハ之<br/>ヲ中級ニ置ク又其次ヲ下級ト爲ス<br/><small>分級ハ物價ニ本ノク宜ヘハ<br/>ヲ一級ト爲シ十五錢ヲ中級ト爲<br/>シ五十錢ヲ下級ト爲スノ類ナリ</small><br/>下級ハ兩鈐ヲ用フ中級ハ片鈐ヲ<br/>用フ上級以上戒具ヲ脱ス但長ク下級ニ在ル者ト雖ト<br/>モ常人懲役ノ第四等ノ限ヲ經レハ片鈐ヲ用ユルコト<br/>中級ノ例ノ如シ第三等ノ限ヲ經レハ下級中級共ニ戒<br/>具ヲ脱スルコト上級ノ例ノ如シ</p>       | <p>第三條老幼</p>  | <p>老幼及ヒ天稟虛弱或ハ病後ノ罪囚ハ始ヨリ輕鎖ヲ著<br/>シ輕役ヲ執シム後チ兩鈐ト爲リ片鈐ト爲リ及ヒ戒具<br/>ヲ脱スルノ限ハ常人懲役法ノ例ノ如シ<br/><small>一、等ハハ常人懲役表ノ凡<br/>白目ト四等ノ百目ト合テ二白目ヲ輕鎖ノ限トス<br/>等ノ如キ第五等ノ<br/>白目ヲ片鈐ノ限トス<br/>等ノ四十五目ヲ戒具ヲ脱スルノ限トス但シ十五歲以下ノ男ハ始<br/>ヲ用ヒス</small></p>                                  |

|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | E<br>e | E<br>d                                     |                      |
|---|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------------------------------------------|----------------------|
|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |        |                                            | 照ス可シ <sup>(12)</sup> |
|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |        | 第四條 婦女                                     |                      |
|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |        | 婦女ノ役ハ粗老幼ニ同シ但始ヨリ戒具ヲ著セサルト<br>早ク一等ニ進ムルトノ異アルノミ |                      |
|   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 第五條 役法 |                                            |                      |
| 1 | 1 | 常人懲役ニ五等アリ毎等ノ役法左ノ如シ<br>第五等 土石ヲ運搬シ荒地ヲ開墾シ米ヲ舂キ油ヲ<br>搾リ石ヲ碎クノ類ナリ <small>碎石ハ街道ノ修繕ニ用アリ右運搬<br/>ニ使ナル水ナリ圖式第四號ニ見ユ</small><br>第四等 諸官邸ノ造營街路ノ修繕瓦陶煉化石等ノ<br>調土及ヒ耕耘ノ類ナリ <small>煉化石製造諸器圖式<br/>第五號及附圖ニ見ユ</small><br>第三等 木工竹工藤工鍛工石工桶工瓦工履工及ヒ<br>皮革工蠶職工ノ類ニシテ一課專業ヲ許ス<br>第二等 第三等ト同シ但其長技ヲ以テ他囚ヲ教授<br>セシム或ハ之ヲ炊夫門番 <sup>中門番</sup> 等ニ使用ス<br>第一等 第二等ト同シ但此限ヲ滿レハ放免ス |        |                                            |                      |
| 2 | 2 | 輕懲役ハ老幼婦女ヲ役ス掃洒洗滌裁縫紡織綢繩製藥<br>養雞豚牧羊ノ類ナリ <small>綢繩ニ簡便器械アリ<br/>圖式第六號ニ見ユ</small><br>四等五等ハ監外ノ重役ニ服ス之ヲ外役ト名ク三等ニ<br>進メハ監内ノ輕役ニ服ス之ヲ内役ト名ク内役ノ中又<br>ソノ類ヲ分ツヲ要ス譬ヘハ竹工十人ヲ一連トシ同所                                                                                                                                                                        |        |                                            |                      |
| 3 | 3 | 輕懲役ハ老幼婦女ヲ役ス掃洒洗滌裁縫紡織造繩 <sup>造繩ニ<br/>簡便器械アリ圖式<br/>第七號ニ見ユ</sup> 製藥養雞豚牧羊ノ類ナリ<br>四等五等ハ監外ノ重役ニ服ス之ヲ外役ト名ク三等ニ<br>進メハ監内ノ輕役ニ服ス之ヲ内役ト名ク内役ノ中又<br>ソノ類ヲ分ツヲ要ス譬ヘハ竹工十人ヲ一連トシ同所                                                                                                                                                                          |        |                                            |                      |

[illegible]

|                         |                                                                     |                 |        |                                                  |                                                                                                                                                                          |                                                                             |                                                  |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------------|--------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
|                         |                                                                     |                 | E h    |                                                  |                                                                                                                                                                          |                                                                             |                                                  |
| 3                       | 2                                                                   | 1               |        | 4                                                | 3                                                                                                                                                                        | 2                                                                           |                                                  |
| 準流ノ囚能ク獄則ヲ守リ工役ヲ勉ムルコト他囚ニ勝 | 第四等ノ者能ク獄則ヲ守リ且技巧アリテ<br><small>殊勲ニテラサル者</small> 其期限ノ半ヲ過レハ專ラ其技ヲ執ルコトヲ聽ス | 第五等ノ一百日間ハ賞典ヲ用ヒス | 第八條 賞罰 | 各役各等期限ノ表ニ見ユル者ハ定則ナリ時アリテ其等級ヲ黜陟シ歲月ヲ延縮スルハ特典ナリ賞罰ノ條ニ見ユ | 【欄中細註ノ一等日數ハ第十三葉欄外附載ノ條ニ同シ】<br>老幼婦女ハ終始輕役ニ服スト雖トモ其第一等ニ進ムノ期限老幼ハ常囚ノ如ク婦女ハ少シク之ヲ速ニス其詳ナルコトハ表ニ見ユ<br><small>實ハハ徒ニシテ他囚ニ於テハ二等以下毎等ノ合數ニ百八十五日ニシテ等ニ進ミ一等ノ限ヲ四十五日トス婦女ハ二等ノ限ヲ七十五日トスノ類ナリ</small> | 凡老幼婦女收贖ス可キ罪ヲ犯シ無力ニシテ追徴スルコト能ハサル者并ニ折半減等法ニ從ヒ役ス<br><small>折半減等法ハハ新條例ニ詳ナリ</small> | 一等ニ進ムノ日限年限ハ表ニ詳ナリ<br><small>表ハ欄式第七號ノ上下ニ見ユ</small> |
| 准流囚能ク獄則ヲ守リ工役ヲ勉ムルコト他囚ニ勝ル | 第四等ノ者能ク獄則ヲ守リ且技巧アリテ<br><small>殊勲ニテラサル者</small> 其期限ノ半ヲ過レハ專ラ其技ヲ修ルコトヲ許ス | 第五等ノ一百日間ハ賞典ヲ用ヒス | 第八條賞罰  | 各役各等期限ノ表ニ見ユル者ハ定則ナリ時アリテ其等級ヲ黜陟シ歲月ヲ延縮スルハ特典ナリ賞罰ノ條ニ見ユ | 老幼婦女ハ終始輕役ニ服スト虽トモ其第一等ニ進ムノ期限老幼ハ常囚ノ如ク婦女ハ少シク之ヲ速ニス其詳ナルコトハ表ニ見ユ<br><small>實ハハ徒ニシテ他囚ニ於テハ二等以下毎等ノ合數ニ百八十五日ニシテ等ニ進ミ一等ノ限ヲ四十五日トス婦女ハ二等ノ限ヲ七十五日トスノ類ナリ</small>                              | 凡老幼婦女收贖ス可キ罪ヲ犯シ無力ニシテ追徴スルコト能ハサル者並ニ折半法減等法ニ從ヒ役ス<br><small>折半減等法ハ新條例ニ詳ナリ</small> | 一等ニ進ムノ日限年限ハ表ニ詳ナリ<br>〔本文之通増補仕度事〕 <sup>(13)</sup>  |

[illegible]



|                                                                     | E i                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                            | E j                                                                                                  |                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ト門ヲ奪ヒ進退スル者之ヲ以テ獄ト謂フ</p> <p>ト門ヲ奪ヒ進退スル者之ヲ以テ獄ト謂フ</p>                 | <p>9</p> <p>獄丁其管スル所ノ外役ノ囚逃亡シ即日之ヲ拿捕スル能ハサレハ之ヲ罰スルニ其備錢ヲ奪ヒ懲治監ニ入ルコト半年ヲ以テス然レトモ其平日謹敕ナル者ハ獄司之ヲ其管轄廳ニ具狀シ寛典ヲ乞フ廳議之ヲ許セハ一月ノ俸ヲ奪ヒ且其一等ヲ貶ス下等ノ者ハ其俸ヲ奪フノミ</p> <p>第九條 書信</p> | <p>1</p> <p>書信ヲ獄中ニ通スル者ハ獄吏先ツ之ヲ檢閲シ害ナケレハ之ヲ聽ス獄囚ノ答書モ亦然リ但印紙一枚ヲ與フルノ外私紙ヲ用ルヲ聽サス<small>印紙ハ縦五寸五分横八寸ニシテ獄印アル者ヲムフ</small></p> <p>2</p> <p>已決者百日以下ハ書信毎月一次徒罪以上ハ三月一次準流以上ハ六月一次ヲ聽ス但未決者ハ此限ニ非ス然レトモ印紙及ヒ檢閱ノ法前文ニ同シ其詳ハ繫獄書信條ヲ参照スヘシ</p> <p>第十條 食料</p> | <p>1</p> <p>各犯ノ食料少差アリ懲役第五等ノ者ハ一日ニ米<small>白</small>麥合テ七合第四等以上及ヒ殊藝并ニ懲治監ノ囚ハ同ク五合五勺輕役寛役及ヒ未決者ハ同ク四合十歳以下男</p> | <p>1</p> <p>各犯ノ食料少差アリ懲役第五等ノ者ハ一日ニ米<small>白</small>麥合テ七合第四等以上及ヒ殊藝并ニ懲治監ノ囚ハ同ク五合五勺輕役寛役及ヒ未決者ハ同ク四合十歳以下男</p> |
| <p>強ヲ持ミ衆ヲ持ミ進退スル者シ公然ト門ヲ奪ヒ獄中ヨリ以テ進退スル者之ヲ以テ獄ト謂フ</p> <p>〔本文ワリ注増補仕度事〕</p> | <p>ルニ其備錢ヲ奪ヒ懲治場ニ入ルコト半年ヲ以テス然レトモ其平日謹敕ナル者ハ獄司之ヲ其管轄廳ニ具狀シ寛典ヲ乞フ廳議之ヲ許セハ一月ノ俸ヲ奪ヒ且其一等ヲ貶ス下等ノ者ハ其俸ヲ奪フノミ</p> <p>第九條書信</p>                                           | <p>書信ヲ獄中ニ通スル者ハ獄吏先ツ之ヲ檢閲シ害ナケレバ之ヲ許ス獄囚ノ答書モ亦然リ但印紙一枚ヲ與フルノ外私紙ヲ用ルヲ許サス<small>印紙ハ縦五寸五分横八寸ニシテ獄印アル者ヲムフ</small></p> <p>已決者百日以下ハ書信毎月一次徒罪以上ハ三月一次準流以上ハ六月一次ヲ許ス但未決者ハ此限ニ非ス然トモ印紙及ヒ檢閱ノ法前ニ同シ</p> <p>第十條食料</p>                                    | <p>各犯ノ食料少差アリ懲役第五等ノ者ハ一日米<small>白</small>麥合テ七合第四等以上及ヒ殊遇并ニ懲治監ノ囚ハ同五合五勺輕役寛役及ヒ未決者ハ同ク四合十歳以下男女共</p>          | <p>各犯ノ食料少差アリ懲役第五等ノ者ハ一日米<small>白</small>麥合テ七合第四等以上及ヒ殊遇并ニ懲治監ノ囚ハ同五合五勺輕役寛役及ヒ未決者ハ同ク四合十歳以下男女共</p>          |

|                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
|                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                           | 2                                                                                                                                                                                                         | <p>女共ニ同ク二合七勺<br/> <small>麥ハ挽キ割リヲ用ユ然レニ使ナリ又印度米ノコトキ麥價ヨリ賤シキ時ハ麥ニ代用スヘン</small> 食料<br/>         ハ未決已決ヲ論セス皆官費ト爲ス獄囚モシ其幼孩ヲ携シコトヲ願ヒ情實ノ已ムヲ得サル者ハ之ヲ聽シ亦官費ヲ以テ之ヲ養フ</p> |
| 4                                                                                                                             | 3                                                                                                                                                                                                         | <p>監倉ニアル未決者ヲ除クノ外各囚ノ食料皆同シ朝夕ハ鹽菜別ニ一羹アリ晝飯ハ七日ノ間ニ野菜三次鮮魚一次鹹魚或ハ乾魚三次合シテ七次ト爲ス<br/> <small>魚類ニ之キノ地ハ牛豚雞ノ骨付ヲ用テ食減ヲ算テ之ニ代ユ</small></p>                                                                                    | <p>二同ク二合七勺<br/> <small>麥ハ挽キ割リヲ用ユ炊煮ニ使ナリ又印度米ノ如キ麥價ヨリ賤シキ時ハ麥ニ代用スヘン</small> 食料ハ未決已決ヲ論セス皆官費ト爲ス獄囚モシ其兒女ヲ携シコトヲ願ヒ情實ノ已ムヲ得サル者ハ之ヲ聽シ亦官費ヲ以テ之ヲ養フ</p>                  |
| <p>常食ノ外加給ノ例左ノ如シ<br/>         一 正月 元日 二 餅一魚<br/>         一 三月 十一日 一 魚<br/>         一 七月 十五日 素麴三椀<br/>         一 九月 廿二日 一 魚</p> | <p>毎日ノ定額左ノ如シ<br/>         一 肉類 價十文内外<br/>         一 野菜 同上<br/>         一 羹實 同上<br/>         一 鹽菜 同上<br/>         一 醬油 四勺<br/>         一 茶 三勺 <small>毎日</small><br/>         一新 二百十勺 <small>同上</small></p> | <p>毎日ノ定額左ノ如シ<br/>         一 肉類 價十文内外<br/>         一 野菜 同上<br/>         一 羹實 同上<br/>         一 鹽菜 同上<br/>         一 醬油 四勺<br/>         一 茶 三勺 <small>毎日</small><br/>         一新 二百十勺 <small>同上</small></p> | <p>常食ノ外加給ノ例左ノ如シ<br/>         一 正月 元日 二 餅一魚<br/>         一 三月 十一日 一 魚<br/>         一 七月 十五日 素麴三椀<br/>         一 九月 廿二日 一 魚</p>                        |

|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     |                                                             |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------|
|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     |                                                             |
|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     | 一十二月廿五日 同上                                                  |
|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     | 【欄中月日ヲ太陽曆ニ改メ正月元日ハ一月一日三月十一日ハ四月七日九月廿二日ハ十一月十一日十二月廿五日ハ一月廿三日ニ作ル】 |
|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         | 5   | 病囚ノ食ハ醫ノ言ニ從ヒ價直ヲ論セス                                           |
|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         | E k |                                                             |
|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     | 第十一條 衣衾                                                     |
| 1 | 獄衣ハ柿色ノ短衣窄袖股引ヲ用フ <small>ヲ獄女ノ衣ハ其袖ヲ窄スルノミ</small> 未決者ヲ除クノ外皆之ヲ著セシム <small>獄衣ヲ染メ薄染ヲ加ヘクミニ耐ヘンム</small> 獄衣ニ番號アリ墨字ヲ以テ第幾舍第幾百幾十幾番ト記ス | 2 | 准流ノ者ハ番號背ニ在リ徒以下ノ者ハ胸ニ在リ股引モ亦左足ニ獄名ヲ記シ右足ニ居房ノ番號ヲ記ス其裁縫摺字皆輕役人ヲ使用ス <small>番號摺字ノ器械ハ圖式第一號ニ見ユ</small> | 3                                                       | 暑中ハ單衣一枚トシ春秋ハ拾一枚襦絆一枚トシ冬時ハ綿入ヲ加ヘ三枚トス單衣ハ三日毎ニ之ヲ洗ヒ襦絆ハ五日毎ニ之ヲ洗フ | 4   | 外役ノ間ハ別衣ヲ著シ歸獄スレハ衣ヲ更ヘシム包藏物ヲ豫防スル所以ナリ                           |
| 5 | 獄衣更換二期限アリ <small>布品ノ精粗強弱ニ因テ豫メ換衣ノ期限ヲ定ム</small> 限滿レハ新衣ニ換フ妄リニ之ヲ汚損スル者アレハ罰則ニ從フ                                                |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     | 一十二月廿五日 同上                                                  |
|   | 獄衣更換二期限アリ <small>布品ノ精粗強弱ニ因テ豫メ換衣ノ期限ヲ定ム</small> 限滿レハ新衣ニ換フ妄リニ之ヲ汚損スル者アレハ罰則ニ從フ                                                |   | 准流ノ者ハ番號背ニ在リ徒以下ノ者ハ胸ニ在リ股引モ亦左足ニ獄名ヲ記シ右足ニ居房ノ番號ヲ記ス其裁縫摺字皆輕役人ヲ使用ス <small>番號摺字ノ器械ハ圖式第一號ニ見ユ</small> | 暑中ハ單衣一枚トシ春秋ハ拾一枚襦絆一枚トシ冬時ハ綿入ヲ加ヘ三枚トス單衣ハ三日毎ニ之ヲ洗ヒ襦絆ハ五日毎ニ之ヲ洗フ | 外役ノ間ハ別衣ヲ著シ歸獄スレハ衣ヲ更ヘシム包藏物ヲ豫防スル所以ナリ                       |     | 病囚ノ食ハ醫ノ言ニ從ヒ價直ヲ論セス                                           |
|   |                                                                                                                          |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     | 第十一條 衣衾                                                     |
|   | 獄衣ハ柿色ノ短衣窄袖股引ヲ用フ未決者ヲ除クノ外皆之ヲ著セシム <small>獄衣ヲ染メ薄染ヲ加ヘクミニ耐ヘンム</small> 獄衣ニ番號アリ墨字ヲ以テ第幾舍第幾百幾十幾番ト記ス                                |   |                                                                                           |                                                         |                                                         |     |                                                             |

|                         |                                        |                    |                                                                                     |                            |                                                                             |                        |         |                                                                          |                                                                       |
|-------------------------|----------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
|                         |                                        |                    |                                                                                     |                            |                                                                             |                        |         |                                                                          |                                                                       |
| 6                       | 7                                      | 8                  | 9                                                                                   | 10                         | 11                                                                          | 12                     | E<br>I  | 1                                                                        | 2                                                                     |
| 獄丁其管下ノ獄衣ヲ検査スルコト七日毎ニ二次トス | 各犯罪已ニ決スレハ之ニ獄衣ヲ與ヘ従前ノ衣服ハ獄官之ヲ領置シ放縦ノ日之ヲ還付ス | 未決ノ貧囚獄衣ヲ乞フ者アレハ之ヲ給ス | 夏時ノ臥具ハ毛布一枚座一枚トス冬時ハ毛布二枚草褥一枚ト爲ス <sup>フランケット</sup><br><small>草褥ハ粗布ニ兼テ包ミ褥ト爲ス者ナリ</small> | 枕ハ杉ノ半圓木ヲ用フ <sup>圖式見ユ</sup> | 枕衾ハ守卒毎朝輕役者ニ命シテ之ヲ検査シ汚損ナケレハ之ヲ一室ニ斂メ <sup>牢中ニ各囚番號アリ</sup> 房中ヲ掃除ス日暮又之ヲ出シテ各房ニ送ラシム | 病囚老囚ハ獄司醫ト議シ衾襖ヲ増加スルコトアリ | 第十二條 工錢 | 凡役囚一等ニ進メハ其製作スル物品ヲ販賣シテ之ヲ官ニ領置シ其内ヨリ毎日錢百文ヲ給與シ放免ノ日右日給ノ百文ト毎日ノ食費トヲ除キ其殘金ハ悉ク之ヲ還付ス | 工藝精シカラサルモノ一等ニ進メハ之ヲ炊夫焚夫小使等ニ役使シ毎日ノ傭錢ヲ通算シ放免ノ日其日給ト食費トヲ減シ其殘金ヲ與ルコト前法ノ如シ但傭錢ハ |
| 獄丁其管下ノ獄衣ヲ検査スルコト七日毎ニ三次トス | 各犯罪已ニ決スレハ之ニ獄衣ヲ與ヘ従前ノ衣服ハ獄官之ヲ領置シ放縦ノ日之ヲ還付ス | 未決ノ貧囚獄衣ヲ乞フ者アレハ之ヲ給ス | 夏時ノ臥具ハ毛布一枚座一枚トス冬時ハ毛布二枚草褥一枚ト爲ス <sup>フランケット</sup><br><small>草褥ハ粗布ニ兼テ包ミ褥ト爲ス者ナリ</small> | 枕ハ杉ノ半圓木ヲ用フ <sup>圖式見ユ</sup> | 枕衾ハ守卒毎朝輕役者ニ命シテ之ヲ検査シ汚損ナケレハ之ヲ一室ニ斂メ <sup>牢中ニ各囚番號アリ</sup> 房中ヲ掃除ス日暮又之ヲ出シテ各房ニ送ラシム | 病囚老囚ハ獄司醫ト議シ衾襖ヲ増加スルコトアリ | 第十二條 工錢 | 凡役囚一等ニ陟レハ其製作スル物品ヲ販賣シテ之ヲ官ニ領置シ其内ヨリ毎日錢百文ヲ給與シ放免ノ日右日給ノ百文ト毎日ノ食費トヲ除キ其殘金ハ悉ク之ヲ還付ス | 工藝精シカラサルモノ一等ニ陟レハ之ヲ炊夫焚夫小使等ニ役使シ毎日ノ雇錢ヲ通算シ放免ノ日其日給ト食費トヲ減シ其殘金ヲ與ルコト前法ノ如シ但雇錢ハ |

[illegible]

| H                                                                          |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                        | G                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                            | 5                                                                                                                                                                                                         | 4                                                                                                                                                                      | 3                                                                                                                                                                      | 2                                                                                                                                                                      | 1                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                        | 6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>官員附守兵備人<sup>(28)</sup></p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>【欄中ノ字ハ皆時ニ作ル<sup>(27)</sup>】</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>處刑</p> <p>刑場ハ監獄場ノ一隅ニ設ク周圍其垣牆ヲ高クシ其門扉ヲ嚴ニス</p> <p>繫獄ノ囚罪已ニ決スレハ裁判所ノ檢使證書ヲ獄司ニ附ス獄司之ヲ囚籍ニ照シテ決放シ其年月罪科ヲ附記ス</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>病囚死スレハ醫之ヲ檢査シ獄司ニ報ス獄司具狀シテ之ヲ裁判所ニ告ク</p> <p>夜中ハ醫一員醫局ニ宿直ス醫局ノ使役ハ犯人ヲ用フト雖トモ夜間使役スヘキコトアレハ守卒及ヒ下男ヲ用フ</p> <p>○處刑</p> <p>刑場ハ監獄場ノ一隅ニ設ク周圍其垣牆ヲ高クシ其門扉ヲ嚴ニス</p> <p>繫獄ノ囚罪已ニ決スレハ裁判所ノ檢使證書ヲ獄司ニ附ス獄司之ヲ囚籍ニ照シテ決放シ其年月罪科ヲ附記ス</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖スルコトヲ許ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> | <p>病囚死スレハ医之ヲ檢査シ獄司ニ報ス獄司具狀シテ裁判所ニ告ク</p> <p>夜中ハ医一員医局ニ宿直ス医局ノ使役ハ犯人ヲ用フト雖トモ夜間使役スヘキコトアレハ守卒及ヒ下男ヲ用フ</p> <p>○處刑</p> <p>刑場ハ監獄場ノ一隅ニ設ク周圍其垣牆ヲ高クシ其門扉ヲ嚴ニス</p> <p>繫獄ノ囚罪已ニ決スレハ裁判所ノ檢使證書ヲ獄司ニ附ス獄司之ヲ囚籍ニ照シテ決放シ其年月罪科ヲ附記ス</p> <p>已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官医解剖スルコトヲ許ス</p> <p>死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ</p> <p>大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム</p> |
| ○官員附守卒備人                                                                   |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|                                              |                |                                   |                                     |           |           |                                 |           |                                |           |                                |           |           |           |           |
|----------------------------------------------|----------------|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------|-----------|---------------------------------|-----------|--------------------------------|-----------|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 15                                           | 14             | 13                                | 12                                  | 11        | 10        | 9                               | 8         | 7                              | 6         | 5                              | 4         | 3         | 2         | 1         |
| 役囚ノ休日亦官員ノ休日ニ同シ當日第八字ヨリ十二字ニ至ル教師ノ講義アリ總囚ヲシテ聴聞セシム | 醫員ハ内外科各一名調藥者一名 | 獄司疾病事故アレハ副司其事ヲ代理ス                 | 教師以上ヲ判任ト爲ス丁長以下ハ獄司之ヲ撰ヒ其管轄廳ノ許シヲ得テ之ヲ命ス | 一下男<br>同上 | 一獄丁<br>同上 | 一授業師<br><small>女男</small><br>同上 | 一守卒<br>適宜 | 一女監長<br><small>女</small><br>一名 | 一丁長<br>同上 | 一教師<br><small>女男</small><br>適宜 | 一醫師<br>三名 | 一書記<br>三名 | 一副司<br>一名 | 一獄司<br>一名 |
| 役囚ノ休日亦官員ノ休日ニ同シ當日第八字ヨリ十二字ニ至ル教師ノ講義アリ惣囚ヲシテ聴聞セシム | 医員ハ内外科各一名調藥者一名 | 獄司疾病事故アレハ副司其事ヲ代理ス <sup>(29)</sup> | 教師以上ヲ判任ト爲ス丁長以下ハ獄司之ヲ撰ヒ其管轄廳ノ許シヲ得テ之ヲ命ス | 一下男<br>同上 | 一獄丁<br>同上 | 一授業師<br><small>男女</small><br>同上 | 一守卒<br>適宜 | 一女監長<br><small>女</small><br>一名 | 一丁長<br>同上 | 一教師<br><small>男女</small><br>適宜 | 一醫<br>三名  | 一書記<br>三名 | 一副司<br>一名 | 一獄司<br>一名 |

| 【欄中ノ字ハ皆時ニ作ル <sup>(30)</sup> 】 |                         |                     |                           |                                |                  |                                                                                     |                                  |                      |                                                                                        |
|-------------------------------|-------------------------|---------------------|---------------------------|--------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
|                               | 16                      | 17                  | 18                        | 19                             | 20               | 21                                                                                  | 22                               | 23                   | 24                                                                                     |
|                               | 丁長ハ五丁ノ長タリ一丁十囚ヲ管ス之ヲ一連ト名ク | 女監ノ長ハ尼及ヒ寡婦ノ行誼アル者ヲ選フ | 女監ハ其長ノ許シニ非レハ獄司ト雖トモ濫入スルヲ得ス | 守卒ハ晝夜獄内ヲ監護シ炊夫掃夫等總テ犯人ノ使用スル者ヲ指揮ス | 授業師ハ各工ノ練達スルモノヲ備フ | 授業師ハ私ニ犯人ト談話シ且犯人ノ請托ヲ受ケ他人ノ贈答ヲ致スマシキノ由ヲ證書シ保人ノ押印ヲ具シ獄司ニ納ム其給金之ヲ世間ノ傭錢ニ比スレハ優ナリ人ノ好マサル所ナルヲ以テナリ | 獄丁ハ皆ナ傭夫ニシテ上中下ノ三等ニ分ツ役囚ヲ指揮スルニ鐵杖ヲ用フ | 下男ハ獄署ノ雜事及ヒ他廳ヘ往復等ニ使用ス | 守兵ハ地方官ヨリ之ヲ出ス晝夜更番警衛ス表門外二名各工役場一名各獄舎ノ門一名監外ノ四隅各一名トス但監獄ノ大小ニ從ヒ適宜ニ之ヲ増減ス<br>但監獄警衛ノ間ハ獄司ノ指揮ニ從ハシム |
|                               | 丁長ハ五丁ノ長タリ一丁十囚ヲ管ス之ヲ一連ト名ク | 女監ノ長ハ尼及ヒ寡婦ノ行誼アル者ヲ選フ | 女監ハ其長ノ許シニ非レハ獄司ト雖トモ濫入スルヲ得ス | 守卒ハ晝夜獄内ヲ監護シ炊夫掃夫等惣テ犯人ヲ使用スル者ヲ指揮ス | 授業師ハ各工ノ練達スル者ヲ備フ  | 授業師ハ私ニ犯人ト談話シ且犯人ノ請托ヲ受ケ他人ノ贈答ヲ致スマシキノ由ヲ證書シ保人ノ押印ヲ具シ獄司ニ納ム其給金之ヲ世間ノ傭錢ニ比スレハ優ナリ人ノ好マサル所ナルヲ以テナリ | 獄丁ハ皆傭夫ニシテ上中下ノ三等ニ分ツ役囚ヲ指揮スルニ鐵杖ヲ用フ  | 下男ハ獄署ノ雜事及ヒ他廳ヘ往復等ニ使用ス | 守兵ハ地方官ヨリ之ヲ出ス晝夜更番警衛ス表門外二名各工役場一名各獄舎ノ門一名監外ノ四隅各一名トス但監獄ノ大小ニ從ヒ適宜ニ之ヲ増減ス<br>但監獄警衛ノ間ハ獄司ノ指揮ニ從ハシム |

|                                               | I                   |                                                  |                                                                                                          |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------|---------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25                                            | 26                  | 27                                               | 1                                                                                                        | 2                                                                    | 3                                                                                                                                                                                                                   |
| 外人來ルモノアレハ門外ノ守兵其姓名及ヒ來意ヲ問<br>ヒ繩鈴ヲ鳴シ獄丁ヲ呼ヒ之ヲ案内セシム | 死刑申渡シ決放ニ至ルマテ守兵之ヲ看護ス | 出火及ヒ非常ノ節ハ守兵ヲ増ス但豫メ近傍ノ屯所ノ<br>隊長ト約定スヘシ守兵ハ犯人ト接話スルヲ禁ス | ○雜則<br>各工ノ器械ハ之ヲ一庫ニ納メ朝夕出納ノ時丁長之ヲ<br>監視ス其法毎朝各丁其管囚ヲ率ヒ來リ出シテ之ヲ借<br>ス收納ノ節ハ小使 <sup>用囚人ヲ</sup> ヲシテ破損ノ有無ヲ検査セシ<br>ム | 獄中ノ官署ニ巡視簿ヲ置ク司法官員毎月兩三次獄中<br>ヲ巡視シ所存アレハ之ヲ簿ニ記シ獄司ト論辨ス其情<br>實ヲ詳ニシテ之ヲ長官ニ呈ス  | 始テ入獄ノ者ハ裁判官ヨリ其郷貫姓名及ヒ罪犯ノ見<br>込ヲ記シテ獄官ニ送ル獄官更ニ其郷貫姓名ヲ本犯ニ<br>證シテ之ヲ囚籍ニ記シ <sup>本貫ハ別ニ</sup> 次ニ其肥瘠長短及ヒ重<br>量ヲ記ス黒子癍痕アレハ亦之ヲ記ス再犯及ヒ准流以<br>上其他兇頑ノ者ハ更ニ其寫眞圖ヲ取り置ク可シ <sup>時感シノ<br/>時感補</sup><br>備フ <sup>ノ用ニ</sup> 次ニ其衣服ヲ検査シ懸物アレハ之ヲ領置ス未決 |
| 外人來ルモノアレハ門外ノ守兵其姓名及ヒ來意ヲ問<br>ヒ繩鈴ヲ鳴シ獄丁ヲ呼ヒ之ヲ案内セシム | 死刑申渡シ決放ニ至ルマテ守兵之ヲ看護ス | 出火及ヒ非常ノ節ハ守兵ヲ増ス但豫メ近傍ノ屯所ノ<br>隊長ト約定スヘシ守兵ハ犯人ト接話スルヲ禁ス | ○雜則<br>各工ノ器械ハ之ヲ一庫ニ納メ朝夕出納ノ時丁長之ヲ<br>監視ス其法毎朝各丁其管囚ヲ率ヒ來リ出シテ之ヲ借<br>ス收納ノ節ハ小使 <sup>用囚人ヲ</sup> ヲシテ破損ノ有無ヲ検査セシ<br>ム | 獄中ノ官署ニ巡視簿ヲ置ク司法官員毎月兩三次獄中<br>ヲ巡視シ所存アレハ之ヲ簿ニ記シ獄司ト論辨ス其情<br>實ヲ詳カニシテ之ヲ長官ニ呈ス | 始テ入獄ノ者ハ裁判官ヨリ其國郡姓名及ヒ罪犯ノ見<br>込ヲ記シテ獄官ニ送ル獄官更ニ其國郡姓名ヲ本犯ニ<br>證シテ獄ニ入レ之ヲ囚籍ニ記シ本書ハ之ヲ蔵貯ス次<br>ニ其肥瘠長短及ヒ重量ヲ囚籍ニ記ス黒子癍痕アレハ<br>亦之ヲ記ス再犯及ヒ准流以上其他兇頑ノ者ハ更ニ其<br>寫眞圖ヲ取り置ク可シ <sup>處ニノ時感補<br/>ノ用ニ備フ</sup> 次ニ其衣服ヲ検査シ                             |

|                                                                                            |                                                |                                                                                                                                                                                           |                                                               |                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 7                                                                                          | 6                                              | 5                                                                                                                                                                                         | 4                                                             |                                                                                        |
| <p>獄官證書ニ就テ役囚ノ年月ヲ算シ満期其年内ニ在レハ之ヲ早見箱ニ入ル若シ後年ニ在ル者ハ之ヲ別箱ニ藏貯ス<small>（早見箱圖式第<br/>十五號ニ見ユ）</small></p> | <p>獄官證書ヲ照シテ役場ニ入ル、コト法ノ如クス但限満テ之ヲ放免スルハ獄司ノ專任タリ</p> | <p>罪已ニ決シ役場ニ入ル者ハ裁判官ヨリ處決ノ證書ヲ獄署ニ送ル其式左ノ如シ</p> <p>徒幾年<br/>何 某</p> <p>某管内某町住身分</p> <p>支何歳</p> <p>罪文申渡全文</p> <p>右申渡畢</p> <p>年號<br/>局<br/>印<br/>支月日<br/>官名姓名</p> <p>【欄中ノ千支ヲ刪ル】<sup>(31)</sup></p> | <p>犯囚ノ衣服諸品ハ之ヲ一庫ニ領置ス庫内ニ數百ノ戸棚ヲ設ケ蓋上ニ番號ヲ記ス囚人ノ衣物ニモ亦番號ヲ附シテ之ヲ鎖ス</p>  | <p>者ハ再ヒ其衣服ヲ著セシメ已決者ハ之ヲ領置シテ獄衣ヲ著セシム<small>（長短ヲ度スルハ圖式第十一號囚<br/>籍ノ書式ハ圖式第十四號ニ見ユ）</small></p> |
| <p>獄官證書ニ就テ役囚ノ年月ヲ算シ満期其年内ニ在レハ之ヲ早見箱ニ入ル若シ後年ニ在ル者ハ之ヲ別箱ニ藏貯ス<small>（早見箱圖式第<br/>十五號ニ見ユ）</small></p> | <p>獄官證書ヲ照シテ役場ニ入ル、コト法ノ如クス限満テ之ヲ放免スルハ獄司ノ專任タリ</p>  | <p>罪已ニ決シ役場ニ入ル者ハ裁判官ヨリ處決ノ證書ヲ獄署ニ送ル其式左ノ如シ</p> <p>徒幾年<br/>何 某</p> <p>国郡町何業</p> <p>支何歳</p> <p>罪文申渡全文</p> <p>右申渡畢</p> <p>年号<br/>局<br/>印<br/>千支月日<br/>裁判官姓名</p> <p>【欄中ノ千支ヲ刪ル】<sup>(32)</sup></p>  | <p>犯囚ノ衣服諸品ハ之ヲ一庫ニ領置ス庫内ニ數百ノ戸棚ヲ設ケ棚蓋上ニ番号ヲ記ス囚人ノ衣物ニモ亦番号ヲ附シテ之ヲ鎖ス</p> | <p>匿物アレハ之ヲ領置ス未決者ハ再ヒ其衣服ヲ着セシメ已決者ハ之ヲ領置シテ獄衣ヲ着セシム</p>                                       |

|                         |                               |          |                       |                                       |                                                                               |                                                                                                                    |                                              |
|-------------------------|-------------------------------|----------|-----------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
|                         |                               |          |                       |                                       |                                                                               |                                                                                                                    |                                              |
| 15                      | 14                            | 13       | 12                    | 11                                    | 10                                                                            | 9                                                                                                                  | 8                                            |
| 囚人ノ故郷遠地ニアリ入獄ノ後其妻孥生計ナク饑餓 | 監獄内ニ書庫アリ多ク佳書ヲ藏シ以テ囚人ノ誦讀ニ<br>供ス | 鎖鑰セサルノミ  | 病囚ノ飲食等臨時ノ入費ハ醫ノ證書ヲ取ルヘシ | 火災非常ノ節ハ獄丁衆囚ヲ率テ之ヲ他處ニ避ク守兵<br>ヲシテ之ヲ監護セシム | 未決者入獄ノ節初犯若クハ再三犯ヲ糺スハ獄吏ノ專<br>任タリ若シ再三犯ナレハ之ヲ裁判所ニ告ク初犯ノ者<br>ト獄ヲ同居セシメス其惡事ヲ誘導スルヲ恐レテナリ | 放免ノ節ハ丁長其囚ヲ引テ監獄ノ守兵所及邏卒屯所<br>ニ至リ戒テ曰ク汝ノ面貌各所ノ兵卒皆之ヲ知ル若シ<br>再ヒ法ヲ犯セハ直ニ之ヲ捕フヘシ今後惡心ヲ改メ善<br>事ヲ行フヘシト畢テ其囚ヲ本籍ニ交附シ其由ヲ裁判<br>所ニ告クヘシ | 一月間ニ數人ノ放免アレハ放免期日ノ月初ニ在ル證<br>書ヲ上トシ以下順序ヲ追テ納メ置ヘシ |
| 囚人ノ故郷遠地ニアリ投獄ノ後其妻孥生計ナク饑餓 | 監獄内ニ書庫アリ多ク佳書ヲ藏シ以テ囚人ノ誦讀ニ<br>供ス | 其鑰ヲ脱スルノミ | 病囚ノ飲食等臨時ノ入費ハ医ノ証書ヲ取ルベシ | 火災非常ノ節ハ獄丁衆囚ヲ率テ之ヲ他處ニ避ク守兵<br>ヲシテ之ヲ監護セシム | 未決者入獄ノ節初犯若クハ再三犯ヲ糺スハ獄吏ノ專<br>任タリ若シ再三犯ナレハ之ヲ裁判所ニ告ケ初犯ノ者ト<br>獄ヲ同居セシメス其惡事ヲ誘導スルヲ恐レテナリ | 放免ノ節ハ丁長其囚ヲ引テ監獄ノ守兵所及邏卒屯<br>所ニ至リ戒テ曰ク汝ノ面貌各所ノ兵卒皆之ヲ知ル若<br>再ヒ法ヲ犯セハ直ニ之ヲ捕フヘシ今後惡心ヲ改メ善<br>事ヲ行フヘシト畢テ其囚ヲ本籍ニ交附シ其由ヲ裁判<br>所ニ告クヘシ  | 一月間ニ數人ノ放免アレハ放免期日ノ月初ニ在ル證<br>書ヲ上トシ以下順序ヲ追テ納メ置ヘシ |

|    |                                                                                                                                   |                                                                                      |    |                                                                                                             |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                                                                                                   |                                                                                      |    |                                                                                                             |
|    | スヘキヲ訴レハ獄司ヨリ管轄廳ヲ經由シテ其地方官ニ傳達スヘシ                                                                                                     | スヘキヲ訴フレハ獄司ヨリ管轄廳ヲ經由シテ其地方官ニ傳達スヘシ                                                       | 16 | 全國中前年罪囚ノ總數各役區別ノ人員諸入費ニ至ルマテ明細ニ之ヲ表ニ記シ毎歲二月限り各府縣ヨリ司法省ヘ出スヘシ<br><small>役囚及ヒ出囚人表ハ圖式第十六號ニ見ユ死刑以下死刑ノ數ハ行刑表ニ記スヘシ</small> |
| 17 | 獄内廁圍場ノ結構ハ尤モ注意ス可シ乾土ヲ撒シテ惡臭ヲ防キ溝水ヲ通シテ汚物ヲ流シ務メテ疾病傳染ノ患ナカラシム<br><small>圖式第一<br/>號ニ見ユ</small>                                              | 獄内廁圍場ノ結構ハ尤モ注意ス可シ乾土ヲ撒シテ惡臭ヲ防キ溝水ヲ通シテ汚物ヲ流シ務メテ疾病傳染ノ患ナカラシム<br><small>圖式第一<br/>號ニ見ユ</small> | 18 | 凡役囚父母ノ喪ニ逢フ者ハ七日夫及ヒ兄弟妻子ノ喪ハ三日各休役セシム                                                                            |
| 19 | 凡懲役一年以上ノ者病ニ罹リ休役スレハ一年毎ニ五十日ハ限内ニ算入シ五十日以外ニ過レハ病愈シ後仍ホ其關役ヲ償ハシム懲役一百日以下ノ者十日毎ニ二日ハ算入シ二日ニ過レハ其役ヲ償ハシム但シ屢次ニ及フ者ハ前後通計合算シテ乗除ス若シ出監シテ責付スル者アル時ハ限内ニ算入セス | 凡已決者役ニ在テ父母ノ喪ニ逢フ者ハ七日夫及ヒ兄弟妻子ノ喪ハ三日各休役セシム                                                |    |                                                                                                             |

- (1) 本項目中の改行は史料の通り。不自然な改行のみられる箇所は継ぎはぎされていることから、草案段階に存在していた何らかの記述が削除されたために空白が残ったものと思われる。
- (2) 史料では、二重の枠線で囲まれている。
- (3) 史料では、二重の枠線で囲まれている。

- (4) 前掲註(2)に同じ。
- (5) 前掲註(3)に同じ。
- (6) C j 5条からC k 1条にかけての継ぎはきは、半丁分にあたる罫紙が丸ごと切り取られ、継ぎ足されている。
- (7) 附紙の貼付位置がC j 5条とC j 6条の中間に位置しているため、「本文之通増補仕度事」がいずれの条文を指しているものか、現時点では確定できない。
- (8) 附紙はC k 2条とC k 3条の間に貼付されているが、本稿第三節において示した見解にもとづくと、該附紙はC k 3条について示したものと考えられる。
- (9) D 10条からD 12条にかけての継ぎはきは、半丁分にあたる罫紙が丸ごと切り取られ、継ぎ足されている。
- (10) 該附紙中、「或ハ総監合炊シテ配與セシム」との記述にかかるような形で、「以下ワリ註之通改正仕度事」と記された附紙が貼付されている。つまり、附紙の上からもう一枚の附紙が貼付された形になっている。
- (11) この附紙は次丁に貼付されているが、明らかにD 12条に関連するものと考えられるため、本項目中に掲載した。
- (12) 本項目中、割註の上部に頭註が記されている。
- (13) 本項目中、一行目の上部に頭註が記されている。
- (14) 本項目中、但書の上部に頭註が記されている。
- (15) 附紙はE g 1条とE g 2条の中間に位置しているため、「本文之通増補仕度事」がいずれの条文を指しているものか、現時点では確定できない。
- (16) E f 2条からE g 2条にかけての継ぎはきは、半丁分にあたる罫紙が丸ごと切り取られ、継ぎ足されている。
- (17) 本項目の上部に頭註が記されている。
- (18) 本項目中、第三則の上部に頭註が記されている。
- (19) E h 7条からE h 8条にかけての継ぎはきは、半丁分にあたる罫紙が丸ごと切り取られ、継ぎ足されている。
- (20) 本条の冒頭は明らかに文意が通らない。これを「監獄則」の内容と比較してみると、罫紙一行の文字数から考えて、ちょうど二行分が欠落しているようである。また、史料ではE h 9条の冒頭「ルニ其」から、罫紙が改まっている。こうしたことから推測するに、元々は前丁にE h 9条の冒頭二行が記されていたものの、継ぎはきによってE h 8条の末尾に割注を追加

した際、それら二行分の記述が脱漏してしまったものではないかと考えられる。

- (21) 史料では、E j 2 条と E j 3 条の間には改行がない。
- (22) 本項目の上部に頭註が記されている。
- (23) 史料ではここで改行されており、「獄衣：」以下は次の項目として記されている。
- (24) 本項目の上部に頭註が記されている。
- (25) 史料では、「有幾万両」の部分に二点が施されている。
- (26) 本項目の上部に頭註が記されている。
- (27) 本項目の上部に頭註が記されている。
- (28) 史料では、H 1 から H 11 にかけて二段組みで記されている。
- (29) 史料では、H 12 条と H 13 条とが改行されずに続いている。
- (30) 本項目の上部に頭註が記されている。
- (31) 本項目中、「支」および「干支」と記された二箇所の上に、頭註が記されている。
- (32) 史料中の「局印」、およびこれを囲む枠線は朱書きである。